

UFO目撃とコンタクト特集

# UFO contactee

SINCE 1961  
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO/超能力/宇宙哲学  
コンタクティ

凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視

私を助けてくれる異星人達

山梨県に出現した巨大UFO

私はアダムスキー型円盤を見た

UFOと異星人の実態

謎の古代マヤ遺跡とUFO

WINTER  
1993

123



〈巻頭言〉 隠 蔽	1
<b>凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視</b>	2
〈写真〉 ブラジルの円盤	9
私を助けてくれる異星人達	上原則子 10
異星人に救われた私	春田美代子 18
グアテマラで目撃した UFO	清水 正 19
<hr/>	
GAP 短信	20
〈写真〉 UFOか?	21
科学—SCIENCE	22
<hr/>	
山梨県に出現した巨大 UFO	24
エゼキエルは宇宙船を見た?	久保田八郎 26
私はアダムスキー型円盤を見た	海瀬宏子 30
英語上達のための助言(1)	久保田八郎 31
<b>UFOと異星人の実態</b>	G. アダムスキー 32
<b>謎の古代マヤ遺跡と UFO</b>	久保田八郎 38
<hr/>	
本誌バックナンバー掲載記事目録	46
〈予告〉1994年度日本GAP海外研修旅行	47
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
〈広告〉新アダムスキー全集	50
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52



金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

## GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

### 〈表紙写真〉

1975年2月18日午後3時20分頃、アルジェンティンのブタクエ/バスで連続5枚撮影されたアダムスキー型UFO。西方から飛来して東方の南大西洋の方へ消えて行った。撮影者は匿名を望んでいる。

最近報道されたところによると、昨年九月に打ち上げられたアメリカの火星探査機マーズ・オブザーヴァーの通信がとだえて、タイムリミットとされる二四日午後五時四〇分を過ぎても通信が回復しないため、一〇億ドルのプロジェクトが水泡に帰することが確定的になったという。

この探査計画は一九七六年のヴァイキング以来一六年ぶりのことで、二四日に火星周回軌道に乗り、六八六日間にわたって火星表面の写真を地球に送り続けることになっていた。

## 三頭表 隠蔽



ところが二一日午後九時(米東部時間)になってカリフォルニア州パサデナにあるNASAのジェット推進研究所との通信がとだえた。回復した過去の経験から二〇分ごとに電波を送ったが反応はゼロだったという。

NASAのプロジェクト・マネジャーのグレン・カニングハム氏は語る。「火星探査機を失うことは太陽系の研究に計り知れない損失になる」と。

同様の探査機を再び打ち上げようにも議会が予算をつけそうにない。来世紀には有人火星探査機を打ち上げる壮

大な計画をしていたNASAにとって、これは痛い打撃になりそうだという。

賢明な読者には探査機の通信がとだえた理由が容易に推測できるだろう。

考えられる一つの理由は、火星に住む人々が何らかの理由で探査機に干渉して発信を中止させたということ。つまり火星の大明文を知られたくないのだ。今回の探査機は一六年ぶりであつて、飛躍的に発達した電子機器を積載しているはずだから、高精度の撮影によって、地球人が目を回すような火星上の大都市やその他の光景を撮影、電送するにちがいない。これを火星人が拒否したと思われるのである。

次に考えられる理由としては、マーズ・オブザーヴァーは全く故障なしに正常に作動し、火星軌道に乗る前から火星の物凄い文明社会の存在を感知して驚愕にあたいする情報を送つたために、NASA側がこれを発表するのは社会にむしろ重大な影響を与えると判断し、搭載機器の故障という名目で隠蔽策を講じたとも推測できるのである。

このような推測は決して荒唐無稽ではない。これまでアメリカが遂行した宇宙開発の諸事業には隠蔽に隠蔽を重ねてきた歴史がある。たとえば、一九六二年二月二〇日、アメリカが打ち上げた地球を回る最初のアメリカ人搭乗の衛星マーカーキユリー六号のカプセル、フレンドシップ7に乗つたジョン・

H・グレン中佐は、地球へ帰還後、記者団に向かって「宇宙空間にホタル火のようなもの(複数)を見た」と発表したために世界で騒然たる話題となり、アダムスキーが「宇宙船の内部」で述べた宇宙空間の光景が正しかったことを証明したというので、いつとき日本の週刊誌までが派手に書き立てたことがある。これに驚いた米政府は、以後、宇宙飛行士に対して厳重な箝口令(他人に話すことを禁ずる命令)をしいたといわれている。

一九六九年七月一六日から二四日まで、アメリカは最初の有人月着陸船としてアポロ一七号の打ち上げに成功した。以後一九七二年一月七日から一九日までアポロ一七号を月に送り込んで、三年間で七回連続した月探検のアポロ計画は終了した。

その間、七一年七月二六日から八月七日までアポロ一五号が五度目の月世界訪問の宇宙旅行を敢行した。搭乗員はデイヴィッド・R・スコット大佐(月着陸船機長)、ジェイムズ・B・アール(イン中佐(着陸船操縦士)、アルフレッド・M・ウォードン少佐(司令船操縦士)の宇宙のサムライたち三名。

ウォードンが月軌道を司令船エンデヴァーで周回するあいだ、着陸船ファルコンに搭乗したスコットとアールは、月面のアペニン山脈に近いハドリー地域へ着陸して両名は総計一八時間半に及ぶ船外活動を行なった。

このとき両名は月面に着陸しているUFO(複数)を目撃したのだ!

それを裏づける証拠がある。後年アールウィンは来日してテレビで講演を行なったが、そのとき「私は月面でUFOを見た」と明瞭に英語で語つたのを編者は確かに聞いたのである。

しかし奇妙なことに、この部分だけは日本語訳の字幕が出なかった。それまでは彼の言葉が逐次日本語に訳されて画面の下に出ていたのに、なぜこの部分だけが省略されたのか、今もって不可解である。翻訳者がUFOという言葉を知らなかったのか(知らなかったとは思えないが)、それとも外部から何かの圧力が働いたのか、もはや知る由もない。

いずれにせよ、アメリカ、旧ソ連等の大国が宇宙開発において(初期においてはソ連がリードしていた)大気圏外の文明に関し驚倒すべき事実を把握していたにもかかわらず、すべてを闇に葬ってしまったと推測するに足る証拠は充分にある。

しかし賢明にして思慮深い米政府は、むしろ地球社会に凄まじい騒動が発生するのを危惧するあまり大気圏外文明の真相発表を控えているのだろう。だが、それにしても極端な隠蔽策はかえってマイナスになるだろう。ウサギのウンチのようにポツリポツリでもよいから洩らしてほしいものだ。

# 凄い超能力者のUFO目撃と遠隔透視

## ★坂本雅実氏の不思議な体験と超常能力



▲坂本雅実氏 写真/久保田八郎

茨城県桜川村に住む坂本氏(三三歳)はダンブで砂を運転する自営業者である。生来不思議な能力を持つ人であったが、長ずるに及んで頻繁にUFOを至近距離で目撃したり、遠方の未知の土地を事前に上空から透視しては安全運転をするという啞然とするような神技を発揮している。

以下は今年七月二日に編者が同氏から聞いた実話。場所は桜川村の日本GAP会員・坂本貢一・茂子夫妻宅。語り手は明朗闊達、素朴にして正直その

ものという人柄。語り口には土地の方言がまじったが、ここでは標準語に直した。

### 母船型UFOが出現!

私は一三年間会社員でしたが、四年前から現在の自営業を始めました。もともとこの土地の生まれです。私が初めてUFOを見たのは中学三年のときです。地名が古渡という所で、ここから三キロ先にあります。そこに

昔、真珠の養殖をしている所があったんです。

霞ヶ浦のほとりの土手の上へ夕方そこへ魚つりに出かけていたんですが、友達がその近くに住んでいて、警察犬みたいな犬をつれて来たんです。

そこで話をしてみましたら急に犬が吠えだしたものですから、何だろうと思つてジョンという名の犬に「ジョン、どうしたんだ?」といいながら、あたりを見回すのに、吠える理由が全然わかりません。

ひよつと空を見ますと宣伝用の細長い気球のような物が見えたんです。しかし胴体には何も書いてなくて、のっぺりした物体です。今思えば鳥肌が立つような物で、アーツと叫んで友達と二人で指さしながら見ていますと、物体はジッと静止していました。そのとき車が来たものですから、それを呼びとめて空を指さしたんです。そしたら運転していた人が「あれはUFOじゃないか」と言います。

物体は三〇秒ぐらい、いたかもしねませんが、瞬間的にパツト消えたんで

す。飛行船ならばゆつくりとスーツと飛びますが、九月か一〇月頃の午後四時半頃の明るいときで、雲も何も無い晴れた空でしたから見失うわけではないのに、全く見当たらず、不思議な消え方をしました。

オカリナみたいな形にも見えましたが、色は茶系統から黒ずんだ色でした。

### そのUFO盤型のUFOも

次に見たのは高校一年のときです。江戸崎町の祇園祭りへバイクで行つて、夕方帰宅のために走っていました。右側のバックミラーが接触して割れていたもんですから、左側のバックミラーだけを使っていたんです。

すると後ろから車が来るのがわかったものですから、速度を落としてゆきましたら、七時頃、円盤型のUFOがジグザグに空中を動いているんです。それは飛行機ではなくて、円盤型であることがはつきりわかりましたね。

そうして筑波山の方へ消えてゆきました。

そのときは気が転倒しましたが、バイクでこけてはいけないと思い、冷静に冷静にと思いながら一生懸命にやると家に帰って、スタンドを立てようとしたらバイクと一緒にこけてしまいました。

形は釜を伏せたような状態で、底は中央部に赤い光が見えましたね。それがジグザグに動くんです。これを見たのはここ（三次）のすぐ先です。そこにお店がありますが、そのちよつと先です。

### アダムスキー型円盤が 超低空に！

三回目に見たのは次のとおりです。私は本来夜空の星を見るのが好きなんです。星座の名などはよく知りませんが、二〇分も三〇分も星々を見ていて飽きないんです。だからよく空ばかりを見ていました。

あるとき自宅の庭に柿がなっていましたので、柿を取ろうとしてやっていたうちに、その上にUFOがいたんで

す。すぐ目の前にいました。ちょうど真上だから、アーツまた来た！と言っているうちに柿のことは忘れてしまいました。家の周囲には防風林がありますから、さほど長くは見ていられませんでした。ずいぶん大き

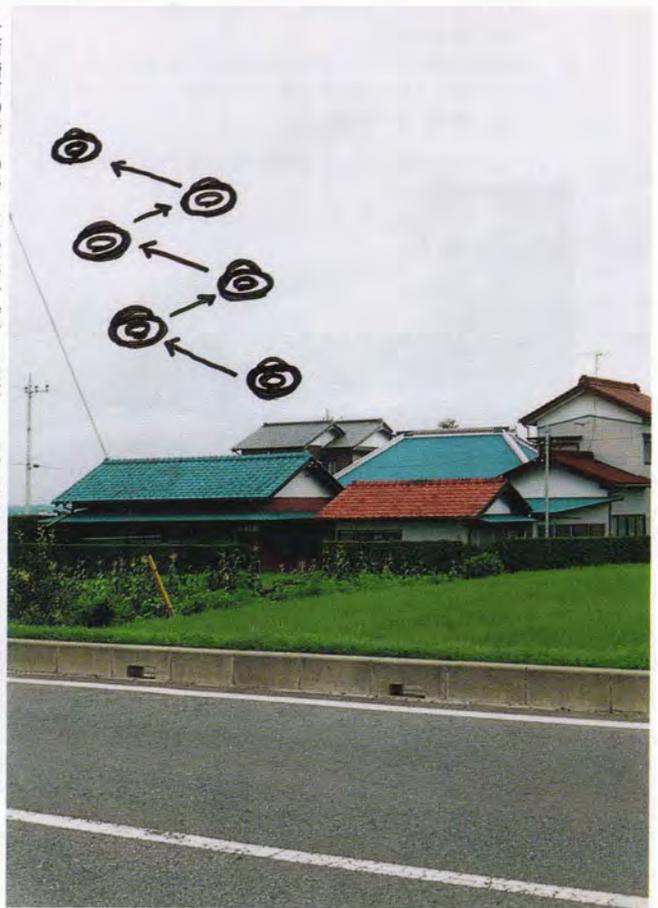
く見えました。ちょうどこんな形でしたね（と言ってアダムスキー撮影の写真を指さす）。

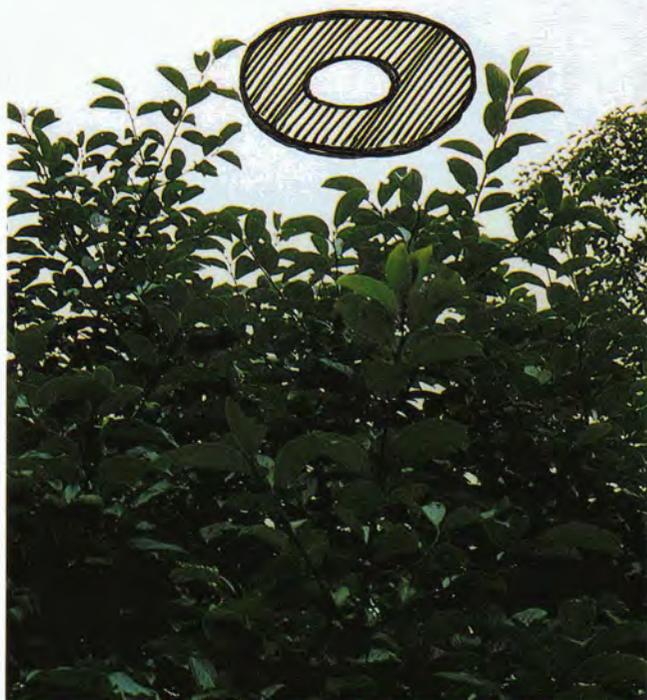
時刻はやはり夕方頃です。物体の高さは四〇メートルかそこらでしょう。

▶霞ヶ浦で見たUFO。上部中心がふくらんでおり、全体は黒っぽくて、四角な窓のような黒い物が横一列に並んでいた。現地にて坂本貢一氏が撮影した写真にペンでUFOの形を描き込んだもの。後ろ姿は坂本雅美氏。



▶江戸崎町の祭りの帰りに見たジグザグに飛ぶUFO。坂本貢一氏撮影の現地の写真に描き込んだ。

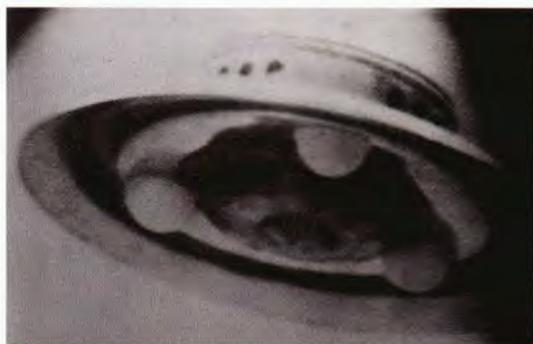




▲坂本雅美氏が自宅のそばの柿の木のすぐ上空にいるのを見たアダムスキー型円盤を、坂本貢一氏撮影の現地の写真に描き込んだもの。

物体の外側は黒っぽい色で中央部は赤く発光していた。右上のアダムスキー撮影の円盤とそっくりだったという。上下の写真共、貢一氏撮影。

▼坂本雅美氏の自宅。左の矢印のあたりにUFOが降下。



▲1952年12月13日午前9:50分頃、ジョージ・アダムスキーが米カリフォルニア州パロマー山の中腹で、6インチ反射望遠鏡で撮影した金星の円盤。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」(中央アート出版社刊)に出ている。



## UFOが急降下

次に見たのは私が二〇歳か二一歳の頃です。用事があって名古屋方面に行ったときのことなんです。

東名高速道でしたか、朝方、五時頃車で走っていましたところ、最初右上に黒っぽい丸い物体が現れて、それが右斜め前に急降下したんです。そこで私があわててブレーキを踏んで停止しました。

ふと見ると、もう何もいません。それから一〇分ほどして空が明るくなりました。

## 二個の大きな月が！

女房と結婚する前には、けっこう二人で車に乗って走りましたが、私は走行中も空ばかり見ていました。すると流れ星のような物を沢山見るんです。

女房に「空を見ている。絶対飛ぶから」と言って二人で空を見ていると、流れ星に似た光体が出てきます。

しかも右を見ていると必ず右方を飛びますし、左方を見れば絶対にその方向を飛びます。五分も空を見ていれば必ず出て来るのが見えました。

あるとき、彼女が夜、私の家に遊びに来るといので、車で迎えに行きましたところ、帰る途中でこんな大きな月がひよいと出ているんです（と言っ

て坂本氏は両手で三〇センチほどの輪をつくる）。

「大きな月だなあ」と驚いてみていますと、その脇にもう一つ月が出ています。そこで昔聞いた話を思い出しました。あんな大きな月を二つみたら、それはキツネかタヌキにだまされているんだから、車の中でタバコを吸うとだじょうぶだという話です。タバコを吸うとその煙でいぶつて消えるというんです。

私はスタンドの所に停まって車から降りました。そして再び空を見ますと、絶対に二つの月が見えるんです。どこから見ても二つです。彼女には「これはキツネかタヌキにだまされているんだ」と話していました。

そのあと、彼女と自宅で遊んで、それから帰るといので送って行くところ外へ出たら、今度は普通の三日月が出ているんです。

「あれ、さっきの二つの月はどうしたんだ？」と二人で驚いていました。完全に消えているんです。

円盤だったかと？ そうですね、そういうのは実はよく見るんです。しかしそのたびにまたイタチかムジナにだまされているのかなと思うんです。

「ここで坂本真一夫妻が、子息の健君のUFO目撃体験の一つを披露した。一年ほど前、アンパンくらいの大きさの透き通った光体が、六メートルほど

先の空中に突然ボンと現れて、横8の字にガーツと旋回したという。一度パツといなくなつてから、また戻つて来た。

そのとき健君は「お前は今のままではいけない。もつと頑張らなければいけないよ」という声なき声のようなものを感じた。横8の字は無敵大の記号だから、無限の力を出せという意味だろうと茂子さんが語る。すると坂本雅美氏がつぶけた」

驚いたことに、それと全く同じ物を私も三回ぐらい見たんです。一度はパツといなくなつてから、また戻つて来るのも全く一緒なんです。

UFOというのは円盤型だと思いは込んでいたもので、8の字型に動く物体には、あまり関心がなかったんです。イタチかタヌキの化かしぐらいにしか思っていませんでした。

「茂子さんによると、以前、雅美氏が

▲ガソリンスタンド付近に出現した「二つの月」。坂本真一氏撮影の現地の写真に描き込んだもの。二つとも黄色っぽいオレンジ色だった。



坂本夫妻を訪れて雑談中、居間の中にも小さな光る物体が出現したのを一同目撃して驚いたという。外から侵入したらしい」

▲坂本真一・茂子夫妻と健君（二四歳）。

セルフタイマー撮影



## 未知の土地を上空から 事前に透視

私は子供の頃からUFOとか空飛ぶ円盤などには関心はなかったんですが、信じないことはなかったのですが、関心の対象にはなりません。アダムのスキーという名も、この前こゝにきて坂本夫妻から初めて聞いたんです。ところで、私にはこんな体験があります。初めて行って初めて見る景色を、実は以前にすでに見ているんです！そこで「あつ、これは見た景色だな」と思うんですが、それは夢の中で見たか何で見たかはわからないんですが、とにかく現地の風景を事前に見る場合は、常に上空から見えます。二〇メートルぐらい上空から見えます。たとえば、どこそこの交差点が右、左と別れている光景なども、すべて前もって上から見ていたことを思い出します。

「事前に自分で意識を送って現地を透視していながら、自分のマインド（心）はそのことを明確に自覚していないのではないかと茂子さんが言う」

あらゆる未知の土地をすべて事前に透視するわけではないのですが、行く先々で「ああ、ここは見たことがある。ここも見た」というふうに思い出すんです。

しかし、夢の中で見たのか、それとも覚醒時に見たのかは、記憶しておりません。

## 事故に遭いそうになると 予感がする

車の事故に遭ったことは全くありません。

この前も私のダンプカーの前方を乗用車が走っていました。ところが、どうもその車が危ないという気がするんです。それで私は十分な車間距離をとりにながら走っていました。そのうち前の車が対向車にドカーンとぶつかって少しパツクしました。しかし私は何の被害も受けませんでした。

誰も経験することですが、よく横からの飛び出しがあります。その場合は、予知感が働いて「何かこの辺に出てきそうな気がするぞ」と思ったら、きめん横から何かが出て来ます。でも私はスピードを落としていますから、事故は起こしません。

## 頭の中で声が聞こえる 奥さん

女房（みどりさん）は車を運転しているときに、ときどき不思議な声が聞こえることがあるんです。「停まりなさい」とか「今はスピードを出さないように」というような声です。それで、そのとおりに走っていますと絶対に安全です。しかし、いつでしたかその声



▶右から

坂本雅美氏の奥さんのみどりさん。  
長男の智昭（ともあき）くん（四歳）。  
長女の沙也加（さやか）ちゃん（五歳）。

に逆らったことがありました。そのため危うくヤバイ目に遭うところだったと言っていました。

人間関係でも、いろいろとアドヴァイズする声が聞こえるので、それに従って行動すると間違いないようです。頭の中ではつきり響く声だということです。

## 祖母の死期に田んぼで 姿を見た母

母も一種の超能力的な体験をするということがあります。あるとき母と私が一緒

に田んぼで稲刈りをやっていたんですが、その頃、母の母親（祖母）が危ない状態で入院していました。

すると母は田んぼの中で祖母と話をしているんです。そして「今、死んだかもしれないから病院さ行くべ」と言うので、この忙しい時に何を言っているんだと私は怒ったのですが、とにかく一緒に行ってみたらもう祖母は亡くなっていました。母が田んぼの中で祖母と話し合った時刻に死んだようです。田んぼの中で母が祖母と話をしているときは、祖母の姿が見えたそうですが、私は何を一人でぶつぶつ言っているんだろうかと思っていました。

祖母の姿が見えたときは真っ白になって来たと言っていました。これは私が一八歳の頃です。

## 過去世に関する映像

私が目をつむると二つの映像が出てくることがあります。一つは馬に乗った昔の武将が見えるんです。もう一つはミレーの有名な絵画「落穂拾い」が出てくるんです。しかも非常に鮮明な絵です。寝るときに目をつむると必ず出てきます。この頃でもそうです。それは二〇年ぐらい前からつづいています。しかし酒でも飲んで酔っぱらって何も考えないで寝るときは見えませんが、飲んでも、そんなに酔っていないときには見えますがね。

武将は戦国時代の甲冑を身につけた人で、その横姿が見えるんです。かなり偉い人ようです。「落穂拾い」については、教科書に載っているのを見て、この絵だったということがわかりました。

その絵が頭の中に出てくるときには、色まで鮮明に見えます。武将の方は少し黒ずんだ形で、動いているのではなくて、ジッとしたままです。

武将が出てきたときには、なかなか寝つけないんですが、ミレーの絵が出てくるとスッと眠れます。武将の姿を見ると血が騒ぐといいますが、落ち着かなくなるんです。これが二〇年つづ

いています。

## 息子は父親の生まれ変わり？

転生（生まれかわり）については全く疑っていません。当然、人間は転生を信じると思います。

四歳になる男の子がいるんですが、二年ほど前にその子と一緒に風呂に入りましたとき、子供が「もつとしっかりしろよ」と、言葉には出しませんでした。したが、そんなことを私に言ったような気がしました。

その時凄く怖くなってきて、それ以来、子供と一緒に風呂に入るのには絶対



▲坂本雅美氏が20年来透視する武將の姿を氏の説明を聞きながら坂本茂子さんが描いたイラスト。雅美氏が見る映像は全体に暗く、甲冑はきらびやかで、刀の柄(つか)が長いのが特徴だという。



▶ミレーの名高い作品「落穂拾い」。これも鮮明に見えるという。

嫌きらになつてきました。

そのとき「この息子は、早く亡くなった私の父親の生まれ変わった姿ではないか」と感じたんです。息子の上には五歳の女の子がいるんですが、その子と風呂に入るのとは何ともないんですが、息子と一緒に怖いですね。

## マムシ取りの名人！

「そばから茂子夫人が「この人は赤マムシ取りの名人なのだ」と意外な情報を伝える」



## ●コルファックスの円盤

1978年4月19日、午後1時30分頃、米ウエスコンシン州コルファックスでハイウエーの1/4マイル警官マーク・コルトレインが車を停めて昼食をとっていたとき、突然出現した円盤型UFOを連続7枚ボラロイドカメラで撮影したうちの5枚目。この物体は彼をめがけて、まるでローラーコースターのように急降下してきたという。

私は以前に会社で重機をやっていたんです。それで山の中で木の根を起こしたりするんですが、するとヘビが冬眠しているんです。あるときそれを五〇匹ぐらい捕まえて、バケツに入れて会社に持って帰ったんです。そして近くのガソリンスタンドの大きなポリバケツに入れて寒中に入れておいたんです。そしてシャッターを始めて帰ったんですが、脇にストープがあるので暖かくなって、みんな逃げだしてしまいました。それでまた捕まえているうちに足をかまれたんですが、これは危うく助かりました。

これを食べるんです。首の所を捕まえて、そこにカミソリで少しスジを入れて皮をむくんです。そして内蔵を指でえぐり取って、頭を切り落とし、少しずつ切ってストープで焼いて食べるんです。凄くおいしいですよ。

### 未来の光景が映像で見える

私は未来に何かを実現させようとする場合は、映像がはつきり浮かび上がります。たとえば現在の家は母家その他で八〇坪ありますが、将来、子供たちが大きくなったときのために、五〇六年後に離れ家を建てようと考えています。そしてその光景がはつきりに見えるんです。あとは建て方をどうするかぐらいですね。

空中を見上げると、未来のその新し

い家が見えるんです。敷地は八〇〇坪ありますので、まだ建てる余裕はあります。

「茂子さんの話によると、坂本雅美氏は大変な酒豪であるという。ときには朝三時頃まで飲んでいて、四時から仕事に出かけることもあるという強豪らしい」

編注Ⅱ坂本雅美氏の話は長時間つづいたが、実に愉快な人物で、素朴にして誠実この上ないタイプの人。話は深夜に及んだ。その不思議な能力と体験はきわめて特異なものであり、過去世からのカルマの関係であるとも思われる。今後の体験を期待したい。

なお、坂本雅美氏と坂本貢一・茂子夫妻は親戚ではない。この辺一帯は坂本という姓が多いのだという。

坂本雅美氏は坂本夫妻の家からはほど遠くない所に住んでおり、ときどき夫妻の宅へ遊びに来るうちに、不思議な体験を少しずつ洩らすようになった。そこで、これは凄い話だということになって、夫妻が編者にその旨を知らせてきたのである。

この件を編者が耳にしたのは今春であつたが、雅美氏が多忙のために会見が延びて、七月にやっと訪問することができた。酒が滅法強いと聞いていたが改めて酒豪ぶりに驚いた。超能力で酩酊を防いでいるのかもしれない。

# ブラジルの円盤

1978年、11月15日午後4時頃、  
ブラジル・ゴヤス州イバマリで  
ロベルト・エディルソン・ペレ  
ス氏が連続4枚撮影した内の1  
枚。

イバマリ付近の氏の牧場の上空  
を飛び回ったこの物体は、2重  
ドームになった金属製であるこ  
とを示している。



## 私を助けてくれる異星人達

## ●上原則子

## 1

筆者は古くからの熱心な日本GAP会員。数奇な運命をたどって現在は会社勤めのかたわら、スペース・ピープルとの度重なるコンタクトを体験しながら、宇宙への思いを高めている。この報告は折々の余暇に綴られた多数の書簡形式の内容であるが、今回まとめて掲載した。事情により本名を伏せて仮名にしてある。

## 強烈な想念が通じた？

いつもお世話様になり、ありがとうございます。素晴らしいユーコン誌を愛読させて頂いておりますが、私のコンタクトの体験は果たして記事として載せる価値があるのかどうか疑問です。特に私が住んでいる金町(都内葛飾区)で会った彼ら(スペース・ピープル=異星人)にとつて、その事は迷惑なのではないだろうかと思えます。

また、反面、なぜ彼らが私に正体を明かしたのか、私が彼らのことを書いてくれそうだからか、または私が悪環境から抜け出せないで心の中では毎日

泣いているのを知って、私を慰めるために現れて下さったのか。

実際、神田で働き始めた頃、会社は倒産しかかかっていて、主人の給料も二、三回に分けて支払われるなど、赤字でした。それが私が働き始めると同時に、N系のチェーンストアに入る事ができ、神風が吹いたように順調に回復できたのです。

ところが主人が株で失敗して大損し、家を建てようと思つて、いくら働いても株を買う資金になつてしまうので、ほとほと心がくたびれていました。あるときなどは電車の中で聖書を読みながら涙がこぼれてしまいました。今は家など建てなくても環境の良いところへ引っ越せばよいのだと悟つております。

都営住宅立て替えのとき、希望すれば都内の別の地域にはいれることがわかつているのですが、彼ら(スペース・ピープル)との別れがつらいために、希望せずに、(十)十(十)十(十)という考えから、金町に住むことにしたのです。

彼らが私に正体を明かしたもう一つの理由として考えられることは、UFOを見てから、そのUFOを動かした方にお会いしたいという強烈な想念が通じたのかもしれないということだと思います。このことは、UFOを見た三カ所の地点(それぞれ違うUFO)で彼らと会つたからです。会つたというよりは同じ道を無言ですれちがつたと言うほうが正確です。

事の起こりは平成二年に私が持病をなんとか治そうと霊能者めぐりをしていた頃です。

平成二年の総会には体の具合が悪くて欠席しており、GAPもやめてしまおうと思つていた頃です。

ちょうどその頃、私のスペース・ピープル探しのセンサーが働き始めたので、それにキャッチされたというだけのことかもしれません。どこかで読んだのですが、彼らはそういう地球人にはすぐ気づくそうだから、そつと目くばせしたということだと思えます。

金町駅のホームへ出るために階段を昇つてすぐの所で、昇つてくる人々を見ながら異星人探しをやっていたら、本当に昇つてきて、しかも一緒に電車に乗つて下さつたのです。

しかし現在は、これからお話しする事情のためそこはコンタクト地点になつておりません。現在は別の地点で女性の異星人の方時々お会いしております。

## 異星人Aの不思議な行動

平成二年、都営住宅建て替えのため、南水元の中川沿いの住宅に一時移りました。その仮移転先からの通勤途中で事が始まつたのです。以前からすれちがつていたのに、気がつかなくつただけかもしれません。

そのとき、駅の方へ行く道でどちらからでも行ける分かれ道があり、私は右側のヨーカー堂の前を通る道から行くことになっておりました。

その分かれ道の所で、よく左側の道へ行く中年(?)の男性がおられました。動作が機敏で、よく働きそうなオジサンという感じです。身長は一五五センチぐらいで小柄です。

彼は働き者タイプだから、あの人の奥さんは幸せだろうなあと余計なことまで考えておりました。

ちょうどその頃、会社では茶袋のシールの(賞味期限などのはいった)機械を買つたのですが、その業者のYさんという方にとても似ていらしたので、いつか本人に聞く機会があつたらお聞きしようと思つていました。

この男性を異星人Aとします。このAをチョイチョイ見かけるようになってのです。佐々木八郎さん流に言えば、男が私のまわりに現れたというわけですから。

そのうちにAは私のいつものホーム



▲金町駅と、コンタクトの場所になったホーム。  
現在は利用されていない。 撮影/久保田八郎

で電車に乗る場所にも現れて、ついに一緒に乗ったのです。しかもすぐ近くの位置で。

南水元の住宅から駅まであまりに遠いので、私は自転車で行くことにしました。すると途中の大通りの向こう側でAが私を待っていて下さることがよくありました。私の方をチラと見ると、すぐに歩き始めました。私は駅まで自転車で行くの、Aは

ほとんど同時に駅に着くのです。それで彼はただの人ではないと直感しました。

異星人だろうか、それともヒマラヤカチベットに住む聖人だろうか、それとも地球人で仙道を習得した人か、という疑問が起こったので、車中でテレパシーでたずねたのです。「あなたは仙道を習ったことがあるのですか？」

すると彼は「え、何？」と耳をそば立てて、「何を言おうとしているかわからない」とテレパシーで答えました。

ただのオジサンだったら私は何てバカなことをしているのだろう、やめてしまおうかと思つたとき、彼は一冊の雑誌を私だけに薄開きにして、私の目の角度からちよつと見えるようにして見せました。そこには青いバックに星が見えました。南天か北天の星座です。

私はすぐにテレパシーで会話をつづけました。

「ああ、やっぱりあなたは異星人だったの？」

「そう」

「へー、すごい。あなたは頭がよいのね」

そこで彼はちよつと威張つたような顔をしました。

## テレパシーで応答するA

Aの風貌を車中でしげしげと見たことがあります。背中がまっすぐで、まるで長い物差しが頭の後ろからカカトまで入っているかのようです。これは私に特に縁のあるらしい異星人のグループの方々の特徴です。

顔の色はやや青みがかつた白色です。目は細く、口はやや大きく、唇は薄く、髪の毛は砂色で、ややふさふさし、オイルバックにしています。ギクシヤクとした動作で、ジェスチャーが天才的にうまく、ジャスチャーでもつて言おうとする事を伝えることができます。鼻はあまり高くなく、東洋人的です。

話がとびますが、神田でお世話になってる歯医者で話好きな方がいらっしやいます。この方にはアダムスキー全集も読んで頂きました。娘さんのご主人が墓無用論の会を主催していて、応援しております。

その方が「あなたがもし宇宙人に会

「つたら、歯をもらってきて下さい」と冗談におっしゃいました。歯からいろいろなことがかかるらしいのです。

三度目頃にAと一緒したとき、彼はテレパシーで知ったのか、わざと（？）大あくびをして、私に歯を見せたのです。歯は白く、一本だけ（左の小臼歯あたりが）欠けていました。

彼は完全に自分の歯と思わせるほどに歯肉にしっかりとはいっておりました。

私はどんなにかその一本の欠けた歯がほしかったことでしょう。でも、抜けた歯を下さいと言えらるほど勇氣はありませんでした。

あるとき西日暮里の駅のホームの売店の前で、Aとばったり会いました。そのとき初めてAの顔を正面から見たのですが、この方は若々しく、折り目正しい紳士に見えました。三〇四〇歳代に見えました。顔が光り輝いているようでした。

車中でAから教えられた事はまだあります。わが家にはその頃、居間にVHSのビデオデッキがなかったので、欲しいと思っておりました。すると電車で、日立のビデオを五万円ぐらいで安売りをやっているチラシをAが見ていて、それを私にも無言のまま見せたので、それを買いしました。その他にも数語、言葉をかかわしたこともありま

す。しかし会話は大体にテレパシーが主体になります。

## 異星人たちの美しい皮膚

私に縁のありそうな異星人のグループの方々の顔は、どこを見てもシミ、そばかす、いぼ、あざ、その他のものはなく、きめが細かい皮膚です。神田で出会う男性異星人の方をDとしますと、このDなどはまるきり血の気がなく、真っ白です。

女性異星人の方も雪のように純白という表現がふさわしく、まことに美しく、一方、シミ、そばかす、しわだらけで色黒な私などは、彼らから美容の秘訣を教わりたいたぐらいです。女性は化粧をしていないか、またはほんのりと薄化粧をしている程度です。

## 茫漠たる彼らの行動

さて、Aの話の続きですが、通勤途中、行きも帰りもよくAと出会った所（道路）は、私が以前にUFOを追って通った道すじです。花の木倉庫の上空に停止しているUFOを見つけて、倉庫の脇の道を探しながら歩いた道です（二〇数年前）。

それからそのUFOが低空飛行して一時停止した場所で、Aと二く三、音声で話をかわしたことがあります。

私が彼ら、特にAに対して音声で話しかけたことは、申し訳がないのです。が、その後の生き方でお詫びしようと

努力しております。

全く彼らは私に何を言おうとしているのかわからないことがあります。秋山真人さんが言っておられるように、コンタクティーの仕事をつづけるのは大変なことです。私はいささか疲れました。

彼らのあとを追いかけるのはやめよう、来てくれる方の教えをよく聞こうと思っはいても、新しい先生（異星人）が次々と来て下さっても、以前の方々のことが忘れられず、うわの空になってしまうのです。

私はまだ正式コンタクトには程遠い人間なのでしよう。その分、自分を磨いてゆかなくてはと思います。

## テレパシーで語りかけるA

私がAとお話をしたことについて書きます。

まず、いつものように私は自転車、Aは徒歩で駅まで来る道ですれちがって、私は駐輪場で自転車を置いて、駅まで歩いている途中、そのときAは私の二〜三メートル先を歩いています。駅までもうすぐというとき、Aは急に

歩みをゆるめて、宇宙語を私だけに聞こえるようにしゃべりました。それが私にはテレパシーで日本語で聞こえました。

「あなたが先に言っ、いつもの場所待っていて下さい。私はあとから行

って別な場所です。待っていますから、電車が来たら一緒に乗りましょう」

## 別れるのは悲しい

私の勤務先は神田ですが、別な場所にティーバッグの工場があって、ときどき改札口より反対側のホームで乗ることがありました。それで、いつもの場所でAはどうしているのだろうと気がかりでした。

ある日、駅のいつものコンタクト地点より乗ると、Aと一緒に乗りました。私は考えました。「彼は地球上に奥さんをつれて来ているかもしれない。そうでなければ、他の惑星に奥さんがいるにちがいない。それにあと一年半ほどしたら、元の場所に都営住宅が建つて、引越越すことになり、違う道順を歩かなくてはならない。しかも元の場所は近所といがみあつた場所柄なので、この際、ずつと遠くに引越越してしまおうか。だからあまり彼に近づかない方がいいんじゃないか」

そうして私は電車の扉側に行き、背を向けました。

するとAの悲痛な叫び声がテレパシーで伝わってきました。

「お別れは悲しい！」

これは確かな実感でした。それ以来しばらく焦点が合わなくなり、私は一つ先で降り、Aは一つ手前で乗

るといふふう。

## 女性異星人たちに嫉妬

Aが私につかわされた天使だとしたら、なんて失礼なことをしたことだろう。それに今まで、小、中、高、大学、それにGAPと私は学んできましたが、奥さんのおありの久保田先生や大勢の方から学んできたではないか。そうだとええAに奥さんがおいでになつても教えて頂こう。

こう思つて私は再度の巡り会いを望んでいましたが、Aが消えてしまったので、彼方の惑星へお帰りになつたのかと思つていました。

ある朝、たまたま一電車早く乗ろうとして早く出たら、駅でAが階段上部の手すりにもたれているのです！そしてそのまわりに二、三人の女の友達がいたので、私がAと一緒に乗つたら、「私の彼よ」とばかりに割り込んだ女性もいました。

あとで考えたのですが、宇宙船内の友達だったのかもしれない。一人は特に美人です。手すりにもたれていた女性たちはみな彼を待っているような気がしました。すごいジェラシーですね。我ながら恥ずかしいです。

## 無言で雑誌を示して教える

Aと一緒に電車に乗つたとき、平和、

静寂、穏やかさ、心を明るくするよう、白色の輝き、こだわりの無さを感じました。(主人に悪いけれど)良い場所を見つけたと思ひました(主人も店によく来ていた女性と、よく電車で行きや帰りばかりか、ときには待ち合わせして一緒に来たこともありましたが、私も許してもらいましょう)。

Aは表情豊かで、女性のような、花のように美しい表情をなさるときもありませんが、私が道で音声で話しかけようになると、恐ろしい表情で睨みつけられたこともあります。しかしふだんは楽しそうな真面目そうな表情です。

以前に無言で星座を見せて自己紹介なさつたとき、私は「ヒマラヤ聖者の生活探求」という本を読んでおりました。するとAはそれを下にして、その上に星座の雑誌を重ねたものだから、あたかもヒマラヤ聖者より自分の方が上なんだという感じがしました。

平成二年二月二四日、電車内でAは無言で私に雑誌を見せて下さいました。あたかも自分はサンタクロースのおじいさんだよという感じでした。その時間帯は本を広げるのにちょうどよいぐらいの間隔があつたのです。Aが見せて下さつた雑誌には、私が欲しかった望遠鏡、カメラ、双眼鏡などのカタログが載っています。そして秋葉原のアトムという店の広告を私の目に近づけて、これを「見て」といふふうに示すのです。

私が忙しくて買いに行けないことをテレビシーでご存じらしく、通信販売の頁もお見せ下さいました。

次の日の朝、自転車Aとすれちがうとき、私は思ひきつて自転車から降りてAに声を出して質問しました。

「昨日、電車の中で見せて下さつた雑誌は何という雑誌ですか？」  
「スカイウォッチャー。どこの本屋でも売っていますよ」

私は早速買いました。次の日から道ですれちがうことは、しばらくお休みになりました。私はその雑誌を見て、アトムでカメラと双眼鏡を買いました。東京では望遠鏡で見える星は少ないので、望遠鏡は買いませんでした。

## 思いやり深さ？

ある日、Aが駅の手すり中央にいるわきから、大勢の女性たちと一緒に電車に乗つたとき、なんと彼が電車の中で声を出して「外は寒いけれども、電車の中は暖かいなあ」と言われたのです。他の女性たちは誰も返事をしなかつたので、私が答えました。「そうですね。暖いわねえ」

これもAの私に対する思いやりと受け取っています。うぬづれかもしませんが、だぶん私が返事をする、ことを予知していたのでしょうか。そうだとすれば嬉しいことです。

## 健康法を教えてくれたA

Aが西日暮里で乗り換えることはわかつていましたので、ある日、私がエスカレーター斜め左側の売店でキャンドーを買ひながらAがエスカレーターで昇つてくるのを待つておりますといつまでも昇つてきません。人がいなくなつたのに。

ふと見ると、反対側の売店に「自分はここだよ」と言わんばかりにAがいたので、私はきまりがわるくなつて、すぐ山の手線東京駅方面の階段を上がつて行きました。こうしてAは私に西日暮里の階段を下から上まで走つて昇ることを教えてくれたのです。

私は彼に見習つてエスカレーターを使用しなくなつたために、自然に呼吸器が鍛えられたためでしょうか、弱い呼吸器がだんだん丈夫になり、体もスマートになつて、おなかの肉がとれてきました。

Aには感謝しなくてはならないのに、ひがんだときがあつて申し訳なく思つています。

## 声をかけては、いけない

先にAに声をかけたとき、にらまれたと言ひましたが、その後はこちらから声をかけるようなことはしませんでした、また以前どおりになりました。

先日、六月一〇日と一日に久しぶりに郷里へ帰ってきました。母方の親類の住んでいる長野県の御牧ヶ原ですが、とても心が休まりました。

ある日、Aは表紙のついていない雑誌を持っておられました。電車の中で彼は無言で私にステレオのスピーカーの直し方を示しました。わが家のステレオのスピーカーは片方が壊れていて音が出なかつたのです。電気に弱い私にはチンプンカンプンで全然わかりませんでした。

そのときAは私に見せようとしていたのではなく、ご自分でお読みになつていたのではないかと思いました。察するに、Aは私のすぐ目の前に本を近づけて、すぐに(自分は老眼だから)本から目を離し、本をずっと遠ざけて自分で見る場合はこうなんだ、だからあなたに見せているのです、と言わんばかりでした。そのとき、一生懸命に教えているんですとAに言われたような気がしました。

彼は電気屋さんらしいので直して下さるつもりかもしれないと思い、今度すれちがうときに声をかけてお聞きしようと思つていますと、お会いできなくなる日が多くなつて、だんだん遅れて、反対側のホーム(亀有寄り)からどうやらお乗りになるようでしたが、はつきりはわかりません。

私はどうしてよいかわからなくなりました。あまりしつこく(結果的に)

追いかけて申し訳なく思いますが、あのまつりです。

そのちよつと前に美人の彼女がAの来るのを待つていました。いつもよりきれいに化粧して、いつもよりおしゃれをして、その姿は女の私でも、「わーっ可愛い!」と思うほどでした。私はだんだんその場所に乗るのがいやになつてしまいました。

Aは電車の中で私に対し、宇宙語で大声で喧嘩をしているようなふりをして、以後ますます離れてゆくようでした。

西日暮里へ着いてから彼はすぐに大声を出しました。何を言っているのかテレパシーは通じませんでした。どうしてなのか、私はAに対して大変申し訳ないことをしたと、今でも後悔しております。

Aについて大変くどい話をするようですが、彼が私と会つて下さった日は、異星人女性のSが最も多くAと一緒に現れた日ですから、ついくどくなつてしまいます。

そうこうするうちに、あの可愛い子ちゃん、いつもの場所に来なくなつたので、ああ、向こうのホームでAと一緒になのだろうと思ひました。

するとテレパシーが来たのです。「彼女はそつちのホームへ行くよ」と。二三日したら彼女は本当に来ました。満足そうで「人生バラ色だわ」というような表情でした。そして「早く

来てよ」というように階段を見下ろして毎日彼を待つているのですから、私はとても見ちゃいられなくなつて、亀有側のホームで乗ることにしました。

### テレパシーで場所を変える

私がそうしたら、Aも亀有側に来て、一瞬、うれしそうな表情をしましたが、テレパシーで「あなたとは一緒に電車に乗らない」と言われました。

あ、その前にこういうことがあつたのです。二年半後に私も同じ立場に立たされたのですが。

駅まで来る途中でAに会つたので、松戸寄りホームから上がったすぐの所でAを待つていました。するとホームの下の方で、右へ行こうか左の階段を上ろうかと右往左往しているAを見ました。でも私の待つている所へ来て下さいました。

つづいて可愛い子ちゃんも上がつてきて、いつもの場所につきました。Aは私と一緒に電車に乗つて下さったのですが、隣の乗降口から乗つた彼女のことを気になるらしく、身をよじつて「ああ、可哀そう」と思つておられるようでした。

時は湾岸戦争が今日にも明日にも始まりそうな時です。私はまたまた失礼な、久保田先生にこつぱどく叱られそうなことを、そのときテレパシーで言つてしまいました。

「私のことなんか気にしなくてもよいですから、原水爆が落とされるかもしれないから、ご出身の惑星へお帰りになつたらどうですか。

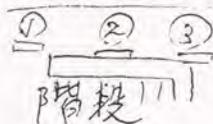
移動しましょうよ。松戸寄りホームでは私たちのことを知つている人がいるみたいなので、亀有寄りホームへ」次の日、大勢の女性たちが②の場所へ電車を待つていましたら、電車が入つて来ました。するとAは③の場所へ移動して、私がそこから乗るのを待つていて下さるようでした。私が前日、移動しましょうと言つたとおりにして下さつたのかもしれない。

そのときAは人込みに隠れるような素振りをなさつたので、私から隠れて③の位置で待つていた可愛い子ちゃんと一緒に乗るつもりかしらと思つて、私も③の位置から乗ろうとしたのですが、やはり②の位置へ逆戻りして②から乗りました。

そのとき、③の場所に乗つたAが、目を閉じてうなだれている姿が②の場所からよく見えました。可愛い子ちゃんも乗つていなかったようです。

### またも雑誌を見せて教える

その日を境にAとのミゾは深まりました。次の日からAはめつきり松戸寄りホームへは見えなくなりました。亀有寄りホームへ移動しようとテレパシーで言つた手前もありましたので、私



次の日、彼は  
電車を待つて  
来た。するとAは—

▲筆者が原稿中に描いたホームの図。

も追いかけて行って三度ほど一緒しました。秘密の場所です。売店の横とか一度はホームの中ほどです。

またも無言で雑誌を見せられました。ステレオは清潔に掃除しなければ良い音は出ないという箇所を見せられました。私は壊れたステレオのスピーカー付近のゴミを取ったり、分解して掃除機でゴミを吸い取ったりしましたが、直りません。

次にAと一緒したとき、この人は電気屋さんかもしれないという私のテレパシーによる疑問に答えて下さいました。

Aは各メーカーのステレオの沢山掲載されているカタログを無言で片っ端からツバをつけてめくって「ちよつと下品な感じがしましたが」見せて下さいました。心臓部が壊れているので買い替えなければならぬという意味で、電子部品が複雑に入り組んだ頁も見せて下さいました。

日立のビデオデッキのカタログを見

せて下さったことがあるので、つきり日立関係のお仕事かと思つたのですが、違うようでした。

そのうちに女性の異星人らしき方が、私とAの秘密の場所で、私かAのどちらかを待っているらしかったので、私はAを追いかけることをやめました。自分の大切な仲間が地球の女に追いかけられれば、それをやめさせるのは当たり前なのでしよう。

### 呼びかけに応じてUFOが出現

次に今度は異星人たちがゆっくりと私と共に歩いて下さった道順と、私が十数年前に見たUFOの飛行進路の類似性について述べてみたいと思います。次頁の黒い線は彼らと私が共に歩いた道です。現在はあまり合わないのがあるいは通動路が変わっているのかも知れません。

UFO①について、これは昔、「UFOと宇宙」誌に報告したのですが、不

採用でした。

UFOを見たいという思いで外に出ると、①の地点にまぶしく輝く白い雲がありました。不思議な雲だなあと思いつながら、しばらくその辺を歩いてきたから、またその地点まで行くと、そのあたりにおぼろ月状のUFOが低空に出現しておりました。

現在は高層団地になっておりますが、当時、一階建てのバラック様の三菱製紙の社宅が並んでおり、上空の見晴らしは割合に良かったのです。

そのUFOが私の歩みと同じ速度で北から南へ飛行し始めたのです。私が立ち止まるとUFOは共に止まりました。そして白くかすんだ状態が一変して、赤オレンジに回転する(ゆれ動く)火球になったので、びっくりして少し怖くなったのです。

すると、こちらの心を察するかのようになり、またおぼろ月状になって猛スピードで飛行し、花ノ木倉庫上空あたりでパッと消えました。

私は再び見たいと思つたら、なんとまた現れたうえ、私と一緒に動いてなかなか消えないのです。そして私の家の斜め上空で停止しました。私は「有難う。お休みなさい」と、心で言つて家に入りました。

### 異星人の指導とちぐはぐになる

平成二年の終わりから三年の始め頃、

現在セブンイレブンになっているのですが、そこで買い物をしてお金を払おうとレジへ行くと、なんとAが買い物をしてレジから袋を受け取つて外へ出るどころでした。私の買い物をもっと早く済ませればAが何を買ったか見られたのに、残念だとそのとき思つたものです。外へ出るとAの姿はありませんでした。UFO①が見える一番始めに光輝く雲が見えた下あたりがセブンイレブンです。

もし金町、特に三菱製紙の付近その他に彼らの何かがあるとすると、私は彼らの秘密を心ならずも暴いていることにならねばよいのですが——。私が報告書を書くたびに彼らに悪いことをしているのではないかと非常に気になります。

その反面、私に書かせるために会つて下さったのかも、という気もします。なぜなら、前回の報告書をお送りした翌日の朝、久しぶりに駅の近くでAに会つたからです。

Aは、いつものように「先に行きなさい」とテレパシーで言つてきたのですが、私はどこで待っていたらよいかわからず、結局、共に電車に乗らないような場所を選びました。

所詮、私は彼らと交流できるには程遠い人間なのでしよう。彼らの意図していることがわからず、こうしてほしいと思つていらつしやることは、まるで正反対のことをいつもしてしま



のです。女性の異星人が私を待っていて下さっても、「あの人はAを待っているのだわ」と勝手に判断して、その場所を離れたりするのです。

## 葉巻型 UFO が出現

UFO②については昔『UFOと宇宙』誌に載せて頂きました。花の木倉庫のすぐ上空の屋根すれすれのところに停止している蛍光色の葉巻型 UFO を発見したのです。それは黒い線の通りに進行しました。

途中、一時停止して、赤い光が点滅したあたりの地点を○で示しました。この場所でAと二、三言葉を交わしました。このことはあとでお知らせします。その後、UFO②は高圧線に沿って飛び、消えました。

UFO③は、夜、テレパシーで呼んでみようと呼んだ結果、現れたものです。もしかすると、UFO②と同じ物なのかもしれません。(日時は違います。いずれも十数年前です)。

私の歩みと同じ速度で進行し、電柱のすぐ上あたりに停止しました。見かけ上、私が見たUFOのなかでは一番大きくて、二メートルぐらいはありました。(編注Ⅱ見かけ上の大きさであった、実寸法ではない)。蛍光色の葉巻型で、ところどころに薄暗く見える箇所があります。

私が主人にも見てもらおうと思って

来たら消えていて、そのかわりにオレンジ色の雲をまとった月のような円形のUFOが位置をやや西に変えて停止していました。

コンタクトの始めの頃、家に帰るとき、いつも自宅付近に点滅する光点を私を迎えてくれるかのように出現していたことを懐かしく思い出します。現在はそういうことはございません。

## A 金星人であることを伝えた

異星人B、C、Dについてお話ししてからにしようと思ったのですが、重要な件についてお知らせ致します。

平成三年冬から春にかけて私はAがもう私と一緒に電車に乗りたがらないのだということを知り、そして女性の異星人が私とコンタクトしようとしているのも知らないで(これは今になって理解できたことですが、当時は単なる地球人女性の取り巻きだと思っていました) 非常に寂しい気持ちでおりまされた。

ある日の帰り道で、西日暮里の駅で乗り換えるとき(山の手線から千代田線に乗り換えるとき) 階段を下りて行くと、Aが毎朝新聞を買う売店のそばの太い柱に背をもたれているのです。誰かを待っているようでした。

Aは私に気づくと、私の後ろからついて来てエスカレーターを下りようとした(?)らしいので、私はまたまた

テレパシーで失礼なことを言ってしまったのです。「私の前に主人がいるの知らないの? 来るな!」

Aは来なかったのですが、その後の私の情けない気持は何と表現してよいかわかりません。Aが主人と私と共に電車に乗ったついでにはないかという自責の念で頭が痛くなりそうでした。

主人はその日風呂へ入るので先に帰ると言って、金町駅から自宅へまっすぐ帰りました。私は買い物しながら帰る途中、なんとAが私の右横を歩いているのです。

空は暗く、金星が正面に出ています。Aは金星を指さして懐かしそうに自分をも指し示し、あたかも自分は金星人なのだという身振りをします。そして月が隠れて惑星が集まるという身振りで複数の惑星をつづけて指し示しました。

私は近づいて「あれは金星ですか」と、わかつているのに声を出してたずねると、「そうです。そしてあれは木星です」とAは答えて、金星のすぐ左側に出ている星を指さしました。

ほんの数秒間のことでした。すぐに大通りにぶつかり、私は左側へ、Aは「私はこっちから行くからね」と言っ

て右側へ曲がりました。当時、私は南水元の仮移転先に住んでいました。家に帰ってスカイウォッチャー誌で調べると、彼が教えてくれた同誌の二

二頁(一九九一年一月号)に、木星、金星、火星の大集合という記事が載っていて、このときのAとのコンタクトは六月二日(水) 新月の日に起こりました。

私が心霊の研究などを始めようとしていたので、もつと空を見上げなさいという意味だったのかも知れません。「本来あなたはGAP活動をしていたのだから元に戻りなさい。横道にそれないように」ということかもしれない。でも私がこれ以上変化しなければ、このようなコンタクトのまま進歩はないような気がします。

共に歩いたり(S)、共にエスカレーターに乗ったり(D)、共に電車に乗ったり(A、B、C、D、E、他のS)、共に食事したり(D)はして下さいますが、その先は私の努力次第だと彼ら異星人は思っておられるようです。

「あなたが望むならコンタクトをつづけることも可能だが、望まないなら中止することも簡単だ」と言われそうなのがするのです。

私が電車に乗ったときによく居る場所は、ドアの前の隅あたりです。

女性異星人らしい方の頭髮は、明るい栗色です。(以下次号)

〈文中の傍点は編者による〉

## 異星人に救われた私——春田美代子 (福岡県)

## △第一信△

私はある危険な状態におちいりました。そして必死にスペース・ピープルにお祈りをさせて頂きました。

するとSさんというある会社の方が、私のことを知らないのに助けて下さいました。これはスペース・ピープルのおかげだと信じています。理由はスペース・ピープルの方々がご存じだと思います。

光がさしたのです。ピカ一ツと。本当に日本GAPの方々とSさんには感謝しております。

## △第二信△

(詳細を知らせるようという編者の依頼に応じて) 実は私は今年の四月に会社に入社したばかりなのですが、ある男性と女性から憎しみや妬みの想念を受けてしまい、体がポロポロになりかけていたのです。(私は氣功を習っているので氣を感じるのです) 体がどんどんやせ細って常に物を食べていないといけない状態になり、食べても体が全く吸収しないのです。

その男性と女性に見られると、ブワブワ、ブヨブヨしたものが体にまつわりつくし、体全体が痒くてたまらないのです。

そこで日本GAPを思い出してスペース・ピープルに必死でお祈りをしたところ、ある日、会社の休み時間に外食をしていると、また例のごとく左側

上からブヨブヨしてすごく妙なニオイのする氣の固まりが来たのです。

「またか」と思っていると、右からパ一ツと明るい光がさして、そのブヨブヨしたものが消えたのです。お店の電氣も一時ついたり消えたりしてました。それから時々会社であぶない時、右側からス一ツとそよ風のようなものが吹いて、体を包んで下さるのです。私は宇宙の方だと信じています。本当に有難うございました。

## △第三信△

私はこの年齢でこのような体験をさせて頂き、本当に驚き、誰も信じては下さらないと思います。一体全体私にも何が何だかわからないのです。

私には靈感もないし靈の存在も否定していません。ところが今年の四月にR社に入社しまして、ある男性の下で働くことになり、それまではどうということはなかったのですが、六月の終わり頃から体が妙に冷たいのです。そして食べても食べても体重は減るばかり。

そしてふと氣がつくと、左の鼻の穴から細長いものがニヨロニヨロ出入りしているのです。そしてその男性が私を見ると、ピユツと何かが飛んできて、頭がフラツとして、夜になると体じゅうを何かがニヨロニヨロとはい回るのでした。

そして靈感のようなものができて、

変なものかわかるのです。そして夜寝ていると、ブヨブヨして生あたたかいものが私の体を覆うのです。何が何だかわかりません。

八月一六日頃がピークで、体の中がドロドロしているのが自分でもわかるのです。八月一八日頃は家で泣いていました。どうしてこんな体になったのかと——。

そして偶然にも日本GAPのユーザー誌を読んでいたのです。するとワーッと光の玉が目玉の涙のところに見れました。何か涼しいような、さわやかな感じの光の玉です。それが私の頭の上で割れて、小さな光になったのです。そしてその光は本当に小さいので目には見えないのですが、体に触れたとき、なんだか冷たい、さわやかな感じがするのです。

そして忘れもしません、その夜、その小さな光の玉が体中の穴から入って中にあるニヨロツとしたものを追い出しているのです。

今この手紙を書いている最中も、目の前で大きくピカ一ツと光ると、体中にニヨロツとしたものが当たると、それが体の中に入ると太くなくなって、はいまわるのです。

今では体の中に入って汚いものを追い出して下さる方が現れてから、そのニヨロツとしたものが当たると、鼻からホコリのような状態で出てきます。まれに何匹か体に入って太くなっても、

別な小さく光るものがサツと行って、外からチクツと刺すと、太くなっていたものがシユンとしほむのです。ふだんはその小さな光の玉は私の口の中に入っていて、危ないときには頭の上で割れて、小さな光の玉になります。

私は不思議で不思議で、とにかく何が何だかわかりません。とにかくわかっているのは、今までそういう体験をしたことがなかったのに、今の職場であの男性と接するうちにこんな事になったものですから、必死で宇宙の方々に助けを求めたのは確かです。

不思議なことに、その光の玉は私の話がかかるらしく、話しかけるとボワ一ツと鼻先などに来て光ります。二回光つたり一回光つたりして、今では靈感もなくまりました。ほとんど少しづつ昔の自分に戻りつつあります。

一方、相変わらず空中から何かが飛んできますが、鼻からホコリで出ますので、もう会社を八月一杯でやめます。とにかく私は宇宙の方々に信じていますので、この方々に間違いないと思います。本当に有難うございました。

実は今北九州市のR社の運営室で働かれていますSさんが異星人なのではないかと思うのです。私には波動でわかるのです。

こうして不思議にも救われたのは、もとは日本GAPのお蔭でありますし、直接には異星人の方々の恩恵です。私はこのことを決して忘れません。

UFO over Guatemala

by Tadashi Shimizu

## グアテマラで目撃したUFO—清水 正

日本GAP横浜支部代表

日本GAPの海外研修旅行中、私は自分の中にある「宇宙の意識」と対面して、毎日がUFO観測会であるかのようにスペース・ビープルを意識して過ごします。

これは私が過去に数度参加した夏の旅行で感じていることです。同じ価値観、同じ目的と一体感を、参加者すべての方々と現地地で案内して頂くガイドさんを感じてきました。そしてこれまでの各旅行でたびたび多くの方々によってスペース・ビープルとのコンクトやUFOの目撃がなされてきました。

今回の旅行も思いきって気持を開放して自分を見つめ、明るく楽しく元氣

に盛り上げてゆこうと思いました。

またせっかくですから旅行中に久保田先生を囲んでの話が出来ればと考えていました。このことを事前に先生に相談しましたら、メキシコ滞在の最初の夜と最後の夜の二回にしてはどうかということでしたが、このたびのスケジュールはけっこうハードなのでその予定は無理になりました。そこでグアテマラ滞在中の中頃にあたる日に集まってはどうかという提案を頂いて、この日に皆さんに呼びかけて集まって頂きました。

私の気持の中に、夜ゆっくり話しあって、それが皆さん方の良い思い出に

なると同時に、過去の旅行でこうして集まった日にUFOを目撃した実例がありませんので、もしかしたら今夜もこのような事が起こりはしないかと期待していました。

八月一七日にはモーニングコールが五時という早朝で、ハードだったので、ワシントンタウン遺跡を見学後は、まだ明るいうちにペテン・イツア湖畔のカミノ・レアル・ホテルでゆっくり過ごすことができました。

同室の井川さんと湖岸に行き、芝生に横になったりボール遊びをしたりして、夕暮れの空を眺めたりしていました。

夕食を皆さんととり、すぐに私の部屋に集まって頂きました。時間は八時三〇分だったと思います。参加者は一〜二名でしたが、一時少し前に解散して後片付けなどをして寝る頃は一時半を回っていました。井川さんは先に床について休んでいます。

しかし私の気持はおさまらず、こんな素敵な夜にはもつと起きて湖と星空を眺めたい思いがありましたので、ベランダへ出て、イスに腰かけたまましばらくあたりを眺めていました。

どのくらいいたったでしょうか、まぶたが重くなつてやつと目をあけていましたとき、前方に突然白い光が輝きました。湖の水中のように感じられましたが、どうも湖面に光が反射してポイントと光っています。もう目が覚めてし

まいました。そして立ち上がって湖を眺めていました。

すると光はこちらに向かってからスーッと左へ点滅しながら移動し、左上へ、そして目の前を右へ横切つて消えてゆきました。

翌日位置関係を確かめましたが、目測ですが、二〇〇メートル先の湖上に現れたように思います。ホテルにしては光が強く、今考えても不思議でなりません。そのときは全く恐怖は感じず、ただ少しですけれど、たんたんとした驚きがあるだけでした。

私はたった一人で見ただけなので、なんとも言えません。しかし夢ではなくて実際の出来事でした。仮にUFOだとしたら出現の仕方が私自身に恐怖心を起こさせないような程度で出現したと言えます。物凄い光ではなく、かといってホテルのような弱々しい光ではなく、また遠近感もよく感じられました。点滅していて生き物のようにも感じられます。

このたびの旅行は私にとりまして大変素晴らしい充実したものでした。今も旅行に参加された方々の親切さと笑顔は忘れられません。どうもありがとうございました。



▲編者と清水正氏(右)。サンフランシスコにて。

## ★今年度海外研修旅行、成功

去る八月一三日より二日までの一日間実施された第一五回日本GAP海外研修旅行「中米マヤ遺跡宇宙ロドの旅」は、参加者一六名でもって出発し、二日に全員無事成田空港に帰着した。ただし途中一人がサンフランシスコより急遽帰国したために一五名の旅となった。

サンフランシスコではダニエル・ロス氏夫妻が全員を迎えて市内観光に合流し、夜は夕食を共にして旧交をあたためた。旅行に関する詳細は本号三八頁より「謎の古代マヤ遺跡とUFO」と題する記事が掲載されている。

## ★九四年度海外研修旅行

来年度の第一六回日本GAP企画海外研修旅行は「アメリカ・メキシコ・コスタリカ宇宙ロドの旅」と題して八月一日より二日まで一〇日間の予定で実施される。今度はアメリカ西海岸有数の大都市ロサンゼルスに入り、市内観光後、デザートセンターのコンタクト地点を訪れる。こは一九五二年一月二〇日、アダムスキーが金星人とコンタクトした歴史的な場所としてGAP会員必見の地。十数度ここを調査している久保田会長が懇切に案内する。次の訪問国は今年と同じメキシコなるも、ユカタン半島の古代マヤの遺跡で白眉とされるパレンケの遺跡を加えた上、未訪問のコスタリカをも訪れる。この国は緑豊かな美しい土

地を有する平和な国土で、白人国なるも親日的な国。メキシコではUFOが着陸して特殊な放射線を浴びせたため、これを飲めばいかなる難病でも治るといわれる奇跡の水の湧き出る所を訪れて存分に飲み、採取して持ち帰る計画も加えられている。ただし参加者は日本GAP会員に限る。詳細は本号四七頁に予告が出ている。

## ★日本GAP総会、盛況

去る一〇月一〇日、恒例の日本GAP東京総会が港区芝公園の機械振興会館地下二階の大ホールで開催され、多数の参加者で盛況であった。夕方は同会館の六階大ホールで立食形式の大夕食会が開催され、これまた大盛況であった。詳細記事と写真は本誌次号に掲載の予定。

## ★東京月例セミナーのテキスト変更

従来セミナーで使用されていた「生命の科学」解説講義は今年一二月でもって終了するので、来年一月のセミナーからは「超能力開発法」(中央アートの出版社刊・新アダムスキー全集第二巻)を使用する。出席者は一月よりこの本を携行されたい。

## ★来年四月に秋田支部大会を開催

秋田支部は来年度の支部大会を平成六年四月三〇日(土)に仙北郡田沢湖畔の田沢湖ハイツで午後一時より五時まで開催する。終了後、夕食会。翌日は八幡平へ観光。盛況が期待される。詳細予告は本誌次号に掲載の予定。今

回は会場がホテルのため宿泊可能。夕食会も同一場所で開催されるので便利。

## ★伊豆支部、来年五月連休に支部大会

伊豆支部は平成六年五月三、四、五日の三連休を利用して盛大な大会を開催する予定。三日に大会を開催(会場未定)、四日と五日の二日間に渡って伊豆半島周遊の画期的な観光を実施する。詳細については本誌一二四号(来年一月発行予定)に掲載する。関東方面から参加しやすいので盛況が期待される。

## ★佐藤忠義氏、新聞に載る

秋田支部副代表・佐藤忠義氏の日本GAPに関する談話が秋田県の「大館新報」八月一五日付に八段抜きで大きく掲載された。UFO問題やGAP活動に関する詳細な内容は、UFOに関する正しい認識を一般人がもつように丁寧に解説されており、同氏の顔写真とともに精彩を放った。これにより秋田県方面に大きな反響が起こり、氏のもとに電話による問い合わせが殺到している模様。氏はもと東京本部役員として活躍した人。

## ★来年一月の東京月例セミナー

来年一月のセミナーは第一日曜日が二日になるために、この月だけは九日の第二日曜日に開催するので注意されたい。この日は恒例の全員記念写真を撮影するので写真希望者は送料共千円を受付に納付されたい。後日個々に送付する(写真はカラー・グラントキヤビネ判)。セミナー終了後、銀座の別会

場で新年会を開催。会費三千円程度。

## ★特別維持会員制度

日本GAPは一般会員とは別に特別維持会員制度を設けています。これは一般会員のなかからさらに有志の方々により、日本GAPの健全な運営と発展を願って維持会費を拠出し、会長の活動を末長く応援しようというもので、九月現在一三三名の方が加入されています。維持会費は一般会費を納めている人がさらに一種の寄付として納入するもので、これに加入した方には久保田会長のエッセイ「意識の声」が毎月贈られます。これにはユーコン誌に掲載されない秘話や宇宙哲学の指導等が盛り込まれています。

会長は本年六九歳なるもユーコン誌への執筆や翻訳ばかりか編集・デザインを一人でこなし、全五二頁のオフセット版を単独で製作する上、毎月のセミナーにおける指導、海外研修旅行や支部大会での指導その他驚異的な能力と体力を発揮して超人的な活動を続ける宇宙哲学の実践者として知られます。多数の方々との維持会加入をお願いします。加入希望者は日本GAP本部宛ハガキで申し込まれば案内書が送られます。(本部役員一同)

## UFOか?!

△矢印の黒い物体を拡大したのが上の写真▽

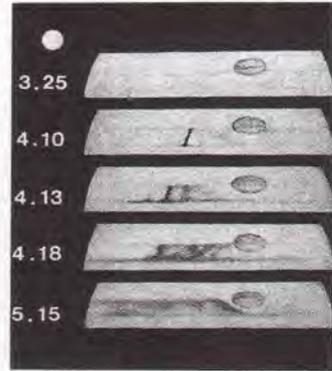
日本GAP会員で東京本部役員の加藤純一君(二三)は、都内でよくUFOを見る特異な人。ここに掲げた写真は本年六月一七日(木)の夕方六時頃、新宿通りを四谷駅に向かって歩いてい

たとき、上空にUFOが滞空しているような特殊なフィードバックがわきおこったので、常時持ち歩いている『写真です』を出して気になる前方を撮影したところ、現像後に黒い物体が写っていた。右はその拡大写真。撮影時には見ていない。

その後、八月三十一日の夕方七時頃、右と同じ場所で同じ位置にゆっくりと飛ぶ大きな光体を一人ではつきりと目撃したという。

以前はやはり四谷で白昼青空を飛んで行く円形の輪郭の明瞭な円盤型UFOがスーツと透明化?して消えて行くのを見た。最初は高空で金色に光って、しだいに銀色の円盤の本体を見せてか





▶観測された木星の渦の形成。「攪乱」の起こった部分を輪切り状に並べてある。大赤班付近の渦はほとんど見えなかった(最上段)が、突然「暗柱」が現れ(二段目)、乱れながら広がっていき(三、四段目)、濃い渦模様となる(五段目)。左の数字は観測の日付、左上の白丸は同縮尺の地球の大きさ。

木星の渦模様を捉らえた

木星の渦模様が短期間に一気にできる様子を関西のアマチュア観測家らが二〇〇枚近いスケッチや写真から再現した。太陽系惑星の気象で最も大規模な「攪乱」だが、NASAの惑星探査機でも観測したことがない。

大津市の小学校教諭の安達誠さんらが京都市の観測者らと連絡を取り合っており、木星の攪乱が発見された時から追跡を始めた。観測のスケッチや写真をもとにして渦模様が形成されていく様子を連続的に図にまとめた。

木星表面の攪乱は淡くなった渦模様が短期間で復活する現象である。「暗柱」と呼ばれる小さな渦模様が、地球の直径を遙かに上回る乱流へと広がっていく。原因やメカニズムは分かっていない。数年に

一度の突発的な現象であり、NASAのボイジャー一、二号などの惑星探査機では観測できなかった。(8・13朝)

マラリアに効く漢方薬発見

一五〇〇年の歴史をもつ中国の漢方薬がマラリアに効くことが、米シガン大のステイブン・メシユニック博士らの研究で明らかになった。

「アーテミスニン」という漢方の解熱薬をマラリア患者にカプセルや錠剤で投与した結果、九八パーセントの原虫が二四時間以内に死滅した。

この薬は雑草から採取されるため安価に製造でき、危険な副作用は全くないという。(7・16読)

尿を使ったエイズ診断

尿を用いてエイズウイルスを一〇〇パーセント検出できる新しい測定法を宮崎医科大学化学教室の石川栄治教授が開発した。血液検査よりも簡単に、採血時の針刺し事故による感染の危険性も減らせる。

これまでの尿検査では、尿中に含まれるエイズ抗体の量が血液に比べてはるかに少ないため、抗体に類似した蛋白質が反応していた。

石川教授らはエイズ抗体を遺伝子工学で作った代替エイズ抗原と、感染の有無を調べる標識を付けた抗原とはさみ、その複合物質を検査用容器の中で処理した。これにより類似した蛋白質が取り除かれ、陽性の場合には標識が発光するので一目でわかる。将来は同じ方法で唾液による検査も可能であり、健康診断並みに簡便になるという。(7・23読)

オスは興奮、メスは冷静

オーストラリアのシドニー大のグラハム・ジョンソン教授らが、動物のオスとメスとはストレスに対処する脳の働きが根本的に異なり、オスの脳活動は高まるがメスはかえって冷静になるということを示した。

マウスに強いストレスを三分間与えた後、脳を解剖して神経伝達物質(脳神経細胞の働きをコントロールする化学物質)を捉える受容体の変化を調べた。受容体は神経細胞表面にあって伝達物質をキャッチするものであり、これが多いほど神経細胞がその伝達物質に敏感に反応する。

ストレスを与えるとオスの場合は、神経細胞を興奮させる伝達物質であるグルタミン酸に対する受容体の数が二五パーセントも増加し、反対に抑制させるGABAという伝達物質の受容体は変化がなかった。ところがメスでは、グルタミン酸の受容体は変わらず、GABAの受容体が二倍に増えた。

ジョンソン教授らは「こういう仕組みがあるので危機に直面した際にオスは群れ防衛のために興奮するし、メスは気持ちを引き締めて子孫の保護にあたるのだらう」と説明している。(7・28読)

数珠つなぎ彗星、木星に衝突

先号の本誌(二二二号)科学欄に掲載された、二〇万キロに渡って数珠つなぎになっている「シューメーカー・レヴィー彗星」が、来年七月二〇日に木星に衝突することが明らかになった。数万年に一度ともいわれる天体ショーになる。

ぶつかる速度は秒速六〇キロで場所は木星の裏側である。彗星の破片がそれぞれ別の軌道要素を持っているため、破片同士は次第に離れていき、木星への衝突

は数日かかるといわれている。(7・31読)

津軽の中世都市発掘

鎌倉時代から室町時代にかけて港町として栄え、突然滅んだと伝えられる幻の中世都市、津軽の十三湊(ときみなと)の町並みの遺構が、ほぼ当時のままの形で、青森県北津軽郡市浦村の畑の下に残っていることが、国立歴史民族博物館の発掘調査で明らかになった。東日本で大規模の中世都市で、西の博多に匹敵する貿易都市であったという。(8・13朝)

胎児の診断は母の血液で

妊娠した母親の少量の血液だけで胎児のDNA(デオキシリボ核酸)情報を読み取って遺伝病の有無を調べる新しい診断法が、金沢医科大学産婦人科の高林晴夫助教授らによって試みられ、抽出・増幅した遺伝子を使った性別判定に成功した。今後は染色体異常の判定に利用されるが、従来の羊水検査などに比べて胎児への影響がない診断法として普及が予想される。

普通赤血球には核がないが、ある時期の胎児の赤血球にはその約一割に核がある。高林助教授らは、妊娠八―三週までの胎児ではその有核赤血球が母体へ微量ながら漏れだすことに着目した。そしてPCR法という遺伝子増幅技術で目的の遺伝子を百万倍に増やして診断する方法を開発した。五人の母体血で調べたところ、全員が性別が判定できた。

現在ダウン症などの染色体異常や血友病などの遺伝病を調べるために、年間五〇〇〇件以上の診断で子宮内の羊水や胎盤の絨毛が採取針を突き刺す方法により行なわれている。このやり方では胎児を傷つけたり、細菌感染させる恐れがあっ

た。母体血なら、通常の血液検査で採血できる。(8・15読)

「アレルギーのない人はガンに注意」  
 大阪大医学部の森本教授の研究によると、花粉症や喘息などのアレルギーになったことがない人は免疫に関係するリンパ球の働きが弱く、ガンになりやすい体質であるという。

森本教授は、アレルギーになりやすい人の血液に多く含まれる蛋白質の一種である免疫グロブリンE (I g E) の量と、体を病気から守る働きをするリンパ球であるナチュラル・キラー (NK) 細胞の活性度を測り、両者の関係を探った。

するとI g E値が低い人のNK細胞の強さは高い人の半分程度であり、I g E値の正常な人と比べても三割以上弱いことがわかった。

NK細胞の働きが悪いと、ガン細胞の発生や増殖を抑えにくく、従ってI g E値が低すぎるとガンにかかりやすいという。(8・20朝)

火星探査機、通信回復絶望

通信不能になっていたNASAの火星探査機マーズオブザーバーはタイムリミットを過ぎても通信が回復しなかった。火星の近接画像を入手しようという一〇億ドルのプロジェクトは水の泡となった。

マーズオブザーバーは昨年九月に打ち上げられ、八月二四日に火星周回軌道に乗り、六八六日間に渡って火星表面の写真を地球に送り続ける予定だった。ところが二一日午後九時になってジェット推進研究所との通信が途絶えてしまった。

NASAのプロジェクトマネージャーのカニングム氏は「火星探査機を失うこ

とは太陽系の研究に計り知れない損失になる」と話している。(8・25毎)

「用心棒を呼ぶキウウリ」  
 京都大農学部農業研究施設の高林助手らはオランダのワーゲニンゲン農科大と共同で、キウウリやリンゴ、マメ類などの葉が、ある種の害虫に襲われると、その天敵を呼び寄せることを実験で確かめた。

体長〇・五ミリほどのナミハダニが葉の汁を吸い取り始めると、葉は「テルペン」と総称される物質を即座に合成する。これが揮発して匂いを発すると、ナミハダニの天敵であるチリカブリダニを呼び寄せるという。(9・4読)

三〇〇万年前の八工を復活

恐龍を遺伝子操作で復元するSF映画「ジュラシック・パーク」のように、化石昆虫を現在に蘇らせるプロジェクトが進められている。

弘前大農学部の城田安幸助教授らがホメオボックスという遺伝子の機能復活を目指している。ホメオボックスは個体発生の過程で体節のできかたをコントロールする遺伝子で、城田助教授らはドミニカ共和国産の琥珀に閉じ込められたハエ

メオボックスと

からホメオボックスを取り出すことに成功した。(7・21読)

「筋肉の動きを予測して一気に命令」

サッカーのシュートや野球の打撃などで素早く滑らかな運動ができるのは、脳が筋肉の動きを予測して瞬時に命令を出すためであることが、国際電気通信基礎技術研究所と電子技術総合研究所の研究で明らかになった。

筋肉の運動は脳の命令が神経を通じて筋肉に伝わって起きる。しかし、その命令が脳から筋肉へ一方的に送られるのか、それとも筋肉の動きを脳が追いつながら命令を微調整しているのかが、はつきりしていなかった。

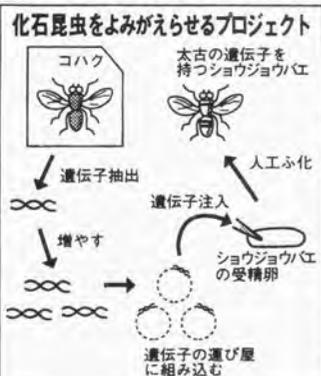
二ホンザルが目を動かすときにどんな信号が目の筋肉に送られているのかを調べたところ、運動に必要な命令が小脳から一気に送られていた。眼球の重さなど小脳に記録されており、目を動かす角度や速さに応じて、必要な力を予測できるらしい。(9・3朝)

「ジギタリスの謎を解明」

二〇〇年以上前から強心剤として使われてきた薬草のジギタリスの心臓収縮力を強める仕組みを岩手医大の後藤秀機助教授らが解明した。その結果、神戸大医学部の西塚泰美教授が七〇年代に発見した、細胞内で情報を伝える「蛋白質リン酸化酵素C」が重要な役割を果たしていることが明らかになった。

心臓の筋肉は心筋細胞中のカルシウムが増えると収縮する。一方、ジギタリスは、細胞膜にある細胞内ナトリウムを汲み出しポンプを止める働きがある。

後藤教授らはウサギの心筋細胞を使って実験した。それによると、①ナトリウ



ムポンプが止まって増えたカルシウムは、細胞膜にある「脂質分解酵素」を活性化させる②細胞内にジアシルグリセロールという脂質が増える③この脂質がリン酸化酵素Cを活性化させて細胞膜に大きな穴を開ける④その穴から入ってきたカルシウムが貯蔵カルシウムを放出させて心筋細胞が収縮する、という。

更に、⑤ジギタリスは心筋細胞内のジアシルグリセロールを増やす⑥ジアシルグリセロールを直接心筋に入れても収縮力が強まる⑦薬物により脂質分解酵素からリン酸化酵素Cの働きを止めるとジギタリスが効かなくなる、なども確認した。

この結果、ジギタリスの代わりにジアシルグリセロールが強心剤に使えることも分かった。リン酸化酵素Cはホルモン分泌、血圧調節、記憶、発ガンなどにかかわっている。(7・19朝)

ジギタリスの強心作用のからくり

ジギタリス

脂質分解酵素

ジアシルグリセロール

リン酸化酵素C

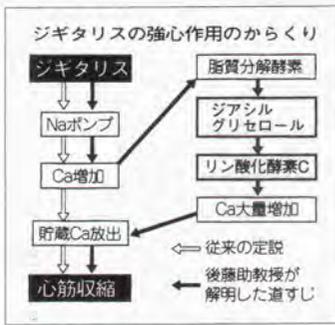
Ca大量増加

貯蔵Ca放出

心筋収縮

←従来の定説

←後藤助教授が解明した道すじ



# 山梨県に出現した 巨大UFO



▲目撃者・館花健逸氏

南アルプスUFOの基地があった?

山梨県の奥地、南巨摩郡早川町の山間に巨大なUFOが出没するという噂がかねてから流布していた。これを聞いた友人から一度見に行こうではないかと誘われて出かけたのは、現在青森県八戸市にお住まいの館花健逸氏(四四歳)である。

時は昭和六三年の四月中旬頃。当時山梨県の日立製作所に勤めていた館花氏は、UFO見物の噂が社内に広まるにつれて十数名にふくれあがった仲間と車数台に分乗して出かけた。

しかし現地は奈良田温泉、奈良田湖歴史民族資料館等が散在する行楽地のこととしていつのまにか遊びが主体になつてしまい、結局、館花氏と二人の友人の三人ずれは同じ車で別行動をとり、奈良田温泉で一泊して、UFOがよく出るといふ現地へ行ってみた。

そこは奈良田の里と呼ばれる所で、奈良時代に女帝の孝謙天皇が住んでいたという伝説の残る場所。

地形は一本道路で、道路をはさんで両側は見上げるような急斜面の山がそびえている。当時は湖は枯渇していた。この早川町歴史民俗資料館や奈良田温泉地帯の反対側山手には南アルプスの高峰が見え隠れする。

資料館の下あたりで車を降りた一行は、しばらく西側の山々を眺めていたが、そのうちに仲間二人は車へ帰ろうとす。館花氏は一人残って山の方を見つめていた。

午後三時過ぎ頃、山の稜線より山肌にも似た巨大な楕円形の物体が無音のままヌーツと出現して引つ込んだと思うと、また出てきた。

驚いた館花氏が見つめると、山と山をまたぐような巨大な物体——にぶい緑色のまじった銀色の物体が、左手からスーッと右手の山あいには渡って消えて行くではないか!

物体が見え隠れしていたときは、それにつれて景色の色合が一変するのには驚いた。

物体の正確な大きさは見当がつかないが、大空に浮かぶ大きな雲のような大きさだったというから、よほど巨大な物だったらしいという。母船タイプだったようだ。

目撃したのは館花氏だけで、他の二人は見えていない。

付近の住民にUFOの事をたずねると、一様に口をつぐんで話したがらない。やはり見ては、いるらしい。恐怖の対象にしているようだ。

これを見るまで館花氏はUFOの存在を全く信じていなかったという。現地は甲府から身延線で急行に乗り、富士川から五〇分ほどの所。現在もUFOが出没するかどうかは不明。

館花氏が描いた目撃地点の地図



# エゼキエルは 宇宙船を見た?

古代に出現した UFO

久保田八郎

永遠の書といわれる旧約聖書の膨大な記述の中には、現代の常識で割り切れない箇所が多々ある。たとえば『出エジプト記』の一三・二一には次のような記述がある。

「主は彼らに先立って進み、昼は雲の柱をもって導き、夜は火の柱をもって彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた」

これは実際には別な惑星から来た大母船を意味するのではないかと解釈できないこともない。モーセを指導した『主』というのはスペース・ピーブルのことではないかと考える UFO 研究者たちがいる。筆者もその一人だ。

こうしてみると、旧約聖書の不可解きわまりない荒唐無稽（たぶらかし）と思われる箇所は古代の UFO 出現やスペース・ピーブルとのコンタクトを意味する場合は多いのではないかと考えられるのであ

Is What Ezekiel Saw a Space Ship?  
by Hachiro Kubota

## エゼキエルの四つの生き物

特に『エゼキエル書』はどうみてもスペース・シップとのコンタクト体験記であって、このことはアダムスキーも認めているが、NASA（米航空宇宙局）の科学者であったジョーゼフ・ブラムリッチも、エゼキエルが見た物はまぎれもない別な惑星から来た宇宙船であったという説を『エゼキエルの宇宙船』と題する彼の著書の中で述べている。以下それについて説明しよう。

エゼキエルという人は旧約聖書に出てくる四大預言者の一人として名高い。預言者というのは神の信託を受けて神の言葉を述べる代言人という意味である。

彼は紀元前五九七年の有名なバビロンの捕囚の際、エホヤキン王とともにバビロンに捕虜として連行され、ケバル河畔に住んだ。三〇歳のとき預言者として召命を受けてエルサレムの陥落を予言し、神殿における司祭としてユダヤ教の父とも言うべき存在となつて多数のユダヤ人に悔い改めと救済のために尽力した。

旧約の『エゼキエル書』の冒頭には次の一節がある。

「私が見ていると、北の方から激しい風が大いなる雲を巻き起こし、火を発し、周囲に光を放ちながら吹いてくるではないか。その火の中には琥珀金の



▲ジョーゼフ・ブラムリッチ  
NASA（米航空宇宙局）の科学者として航空機とロケットの設計で多大の業績をあげた。

輝きのようなものがあつた。

またその中には四つの生き物の姿があつた。その有様はこうであつた。彼らは人間のようなものであつた。それぞれが四つの顔を持ち、四つの翼を持つていた。

脚はまっすぐで、脚の裏は子牛の脚の裏に似ており、磨いた青銅が輝くように光を放つていた。また翼の下には四つの方向に人間の手があつた。四つとも、それぞれの顔と翼を持つていた（以下略）

## 「改宗」したブラムリッチ

前述のブラムリッチは一九五九年にオーストリアからアメリカへ渡り、NASAの機構設計部長としてサターン五型ロケットの共同製作者の一人として活躍し、多くの特許も取つた人。もともとエゼキエルが古代のコンタクトイデオロギイであつたという説を広めたの

はスイスの研究家エーリッヒ・フオン・デニケンである。

デニケン是世界中の謎の遺跡や遺物などを片っ端から異星人や大気圏外から来る宇宙船に結びつけた人で、『神々の戦車』その他の著書で名高い。かなり独断的と見られた面もあつて、必ずしも世界の UFO 研究家の全面的な賛同を得たわけではないが、メキシコ・ユカタン半島パレンケの『碑銘の神殿ピラミッド』の地下墳墓に横たわるパカル王の石棺の蓋の浮き彫りのように、彼の『偏見の声明』によつて世界に浮上して有名になつた遺跡が多数ある。

このデニケンの「エゼキエル・コンタクトイデオロギイ」を真っ向から否定したのがブラムリッチである。航空機やロケットの設計に多年たずさわつた彼は、デニケンの説に対して反証をあげようと大研究をやつた結果、ついにミイラ取りがミイラになつたのである。結局、

エゼキエルは真正正銘の宇宙船に遭遇したのだという結論に達したのだ！

## 四本脚を持つ宇宙船

彼によれば、エゼキエルが見た四つの生き物というのは、実際には生き物ではなくて、巨大な宇宙船の四本の着陸脚部だったという。各脚には前後に動いたり横に回転する車輪が一個ずつついていて、翼というのは回転翼のことで、一種のヘリコプター式機構を持つ宇宙船であった。船体はロケットエンジンで推進し、巨大なコマ型の船体の内部に燃料が貯蔵されていた。ヘリコプター式回転翼は着陸態勢のときだけ使用されたらしいという。プラムリッチは次のように述べている。

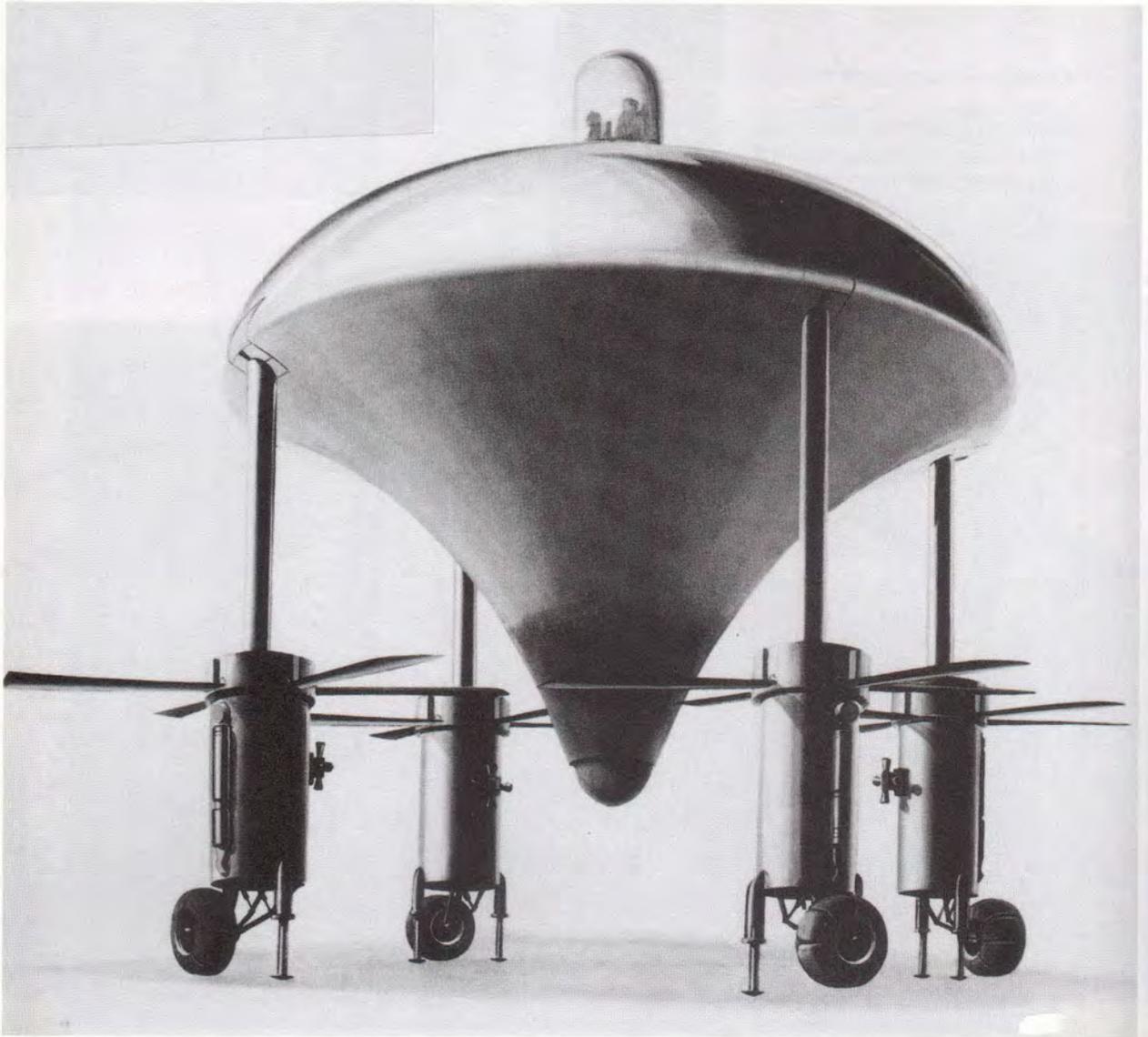
「疑うべくもないこの宇宙船は、技術的に可能であるだけでなく、その機能と目的を果たすために、きわめて巧みに設計されている。決して空想的ではなく、その優れた外観からもわかるとおり、ほぼ我々の現代の能力に匹敵するものがある。」

この宇宙船は地球を回る母船とともに動いていたらしい」

そしてプラムリッチは、大気圏外から来た異星人がエゼキエルと四回会ったうえ、宇宙船に乗せて運んだことを「エゼキエルは、自分は精霊によって引っ張り上げられたと述べているのだ」と結論づけている。

アダムスキーによれば、エゼキエル

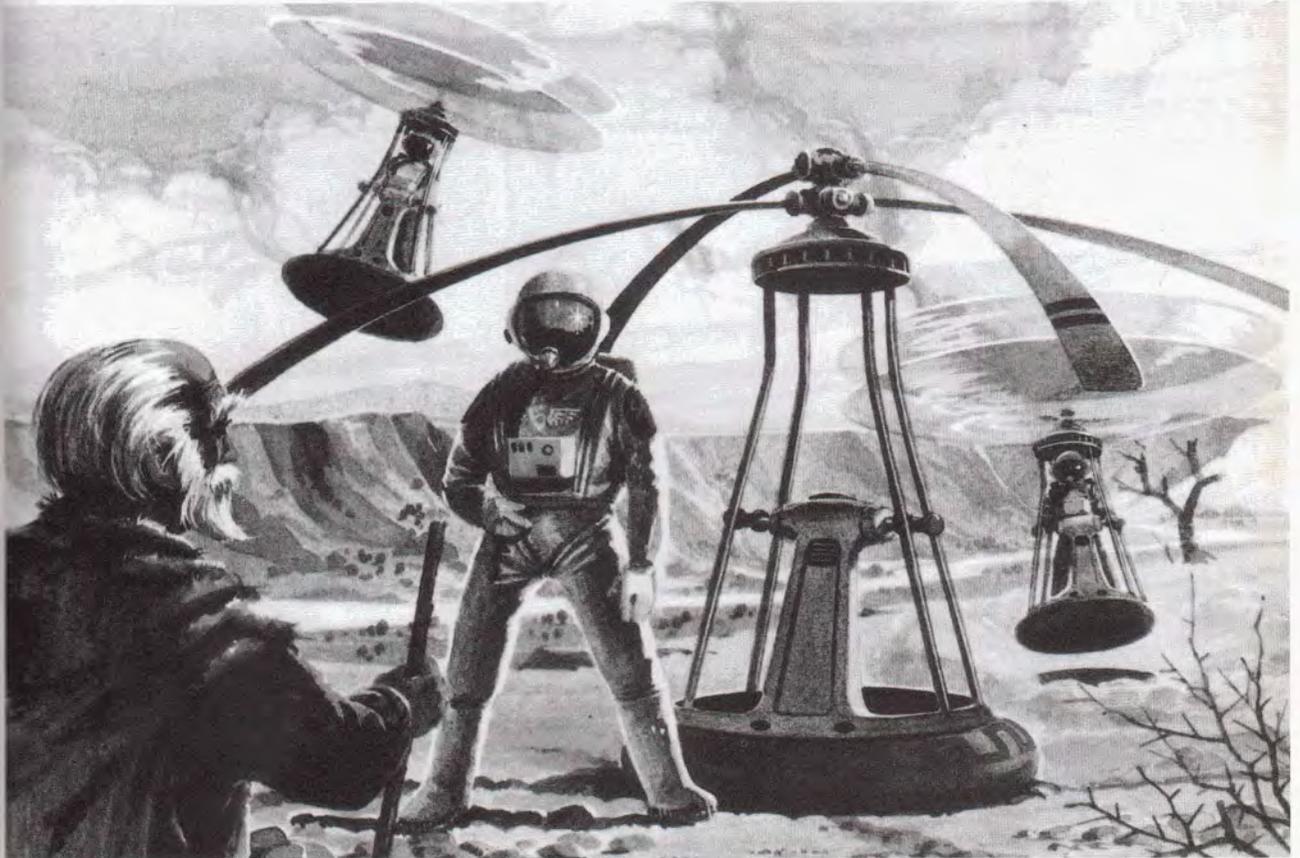
▼旧約聖書の「エゼキエル書」で描写された物体を、プラムリッチが推理して描いた宇宙船。飛行中は4本の脚が上方へはね上がって、たたまれる。



▼上の絵は旧約聖書の記述にもとづいて忠実に再現したもの。  
翼を持つ4つの生き物は人間、ライオン、雄牛、ワシなどの  
顔をあらわす。戦車には人間が乗っている。



▼下の絵はイギリスの航空画家でパイロットのキース・モスリーが描いたもので、エゼキエルの「4つの生き物」を独自に解釈して、実際にはこのようなヘリコプター式の間人運搬機ではなかったかと推測している。



が遭遇した物体は、現代に見られる円盤型のスカウトシップと同じ物だということを示唆しているが、いずれにせよ、旧約聖書や新約聖書の記述には、「火の柱」とか「人の子が雲に乗って」だのと、聖書学者を悩ます表現が多々あるけれども、これらを古代に出現した別な惑星から来た宇宙船や異星人とみれば見事に解決がつくのである。

たしかに、UFOなるものが古代から出現していたらしい記録は多数あるから、この解釈に無理はないと思う。

前述のモーセにしても、「出エジプト記」は実際はモーセと異星人とのコンタクト体験記なのだと米ニューヨーク州エンドウエルの長老教会牧師バリー・ダウニングが主張していた。

たとえば、イスラエル人の大部隊が荒野で数年を過ごしていたあいだに出現した「主」「神のみ使」「雲」などの表現はUFOだったのだと彼は言っており、またシナイ山でモーセに十戒を授けた場所は、着陸した大母船の内部であったのだという説をとなえている。

新約聖書にしても不可解な箇所が多数あるが、それらもUFOや異星人と関連づけると正確な意味が浮かび上がってくる。そもそもイエスはコンタクティーであったと推論するに足る十分な記述が随所に見られるのである。

(掲載イラストは学研刊・ロイ・ステマン著・久保田八郎訳「宇宙よりの来訪者」より転載。現在は絶版)

## ●ローマ上空のアダムスキー型円盤

1954年、ローマのマリオ山上空を飛ぶUFOを、ローマのトゥーリ・マッタレーラが撮影した。上部にドームが見える。



I Saw an Adamski-type  
Flying Saucer  
by Hiroko Kaise

## 私はアダムスキー型

# 円盤を見た

海瀬宏子

今から一五年前です。その頃はオカルトブームだったのででしょうか。私はノストラダムスの大予言、UFO、幽霊等に興味があり、そういった本ばかり毎日読んでいました。

中学と高校時代は大変無口で、人生や人間について考えすぎて、暗い日々を過ごしておりました。

高校を出てからは歯科技工士学校に入學し、東京に出ました。その頃、ある宗教団体に出入りしていたのですが、つまらなくなつてやめてしまいました。

二年を東京で過ごし、歯科技工士の免許を取得して故郷に帰り、U市にある歯科医院に勤めることになりました。自動車の免許をとり、新車を親に買ってもらつて通い始めた昭和五二年の六月です。日には全く記憶にありません。郷里は長野県のある町です。

私には六歳下の妹がいます。その妹が夕方五時頃、二階のベランダにいつものように洗濯物を干そうとして上がつてからすぐに「お姉ちゃん、空に変な物が浮かんでいるよ!」と大声で叫

んでいるので、私があわててかけ上ると、黒いようなお釜のような物体が空に浮かんでいるのです。

私が見たとたん、すぐその物体からオレンジ色の小さな二個の丸い物体が、その黒い物体から空中に放出されてピカピカと光っていました。

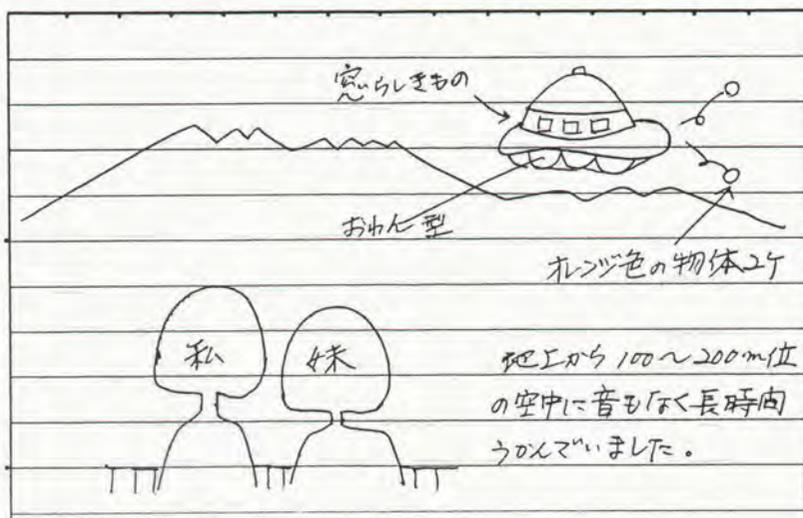
はじめ私はソ連かアメリカの軍事兵器ではないかと思いましたが、音もなく長時間空中に静止しているのです。はつきりと、あまりにもはつきりと――。確か夕方五時頃から二〜三時間、いえもつといたのかもしれない。

次の日の朝は跡形もなくその場所から消えていました。その物体は黒い鉄のかたまりのように見えましたが、妹は青く見えたと言っています。窓のようなものも三〜四カ所見えましたし、下の方には半円型のおわんのような物も三〜四カ所見えました。

私たちは驚いてしまい、とにかくあの物体の下まで自動車で行こうということになり、出かけたのですが、途中で行くに急に恐ろしくなつたので、やめてすぐに家に戻りました。しかし物体はまだ空に浮かんだままです。

見たところ、地上から一〇〇メートルぐらいで、見かけ上の大きさは私のところから子供の頭ぐらいの大きさにはつきりと見えました。とにかく家に帰つてからも何回も空を見ましたが、物体はまだいました。そのときには写真に撮ろうと思つたのですが、なぜだ

### イラストは筆者による



か撮らずじまいでした。

この事を他の方々に話したのですが、全く信じてもらえず、それからはなんとなく話さなくなり、私自身も「なかなか不思議な物を見たけど、いったいあれは本当だったのだろうか」ぐらいに思つて、すっかり他人には話さなくなりました。その後私は日本GAP会員

となつて、あの物体がアダムスキー型円盤といわれるものであることがわかりましたし、現在は長野支部に所属して宇宙的な哲学を学んでおり、幸せな毎日を過ごしています。

(編者注)筆者には他にもUFO目撃が多数あり、不思議な出来事が多く発生するそうだが、都合により省略

今回より英語講座を連載すると先号の「GAP短信」欄で予告しましたが、その後検討してみますのに、音声を発しない印刷された文章だけで外国語の指導をするのは至難であることがわかりましたので多年に渡る連載は中止し、今後数回だけ重要なヒントを述べますから、ご了承下さい。いずれ私の書き下ろしで「英語を母国語のように身につける方法」(仮題)と題する本を、録音テープと組み合わせる他の出版社から刊行するつもりです。

しかし、ここに述べるヒントだけでも理解して学習されるならば画期的な進歩が実現しますから、熟読して学習してみてください。

#### ■日本人には、なぜ英語が難しいのか

この理由は明白です。明治以来、日本の学校では「英数」として英語と数学を基礎学科の王様にしてしまい、そのために英語というたんなる外国語を、まるで難解な学問であるかのごとく神棚に祭りあげたために学生生徒が萎縮してしまい、英語とは難しい学問なのだという先入観にとらわれて手も足も出なくなってしまうのです。この罪は日本政府の文部省にあります。それは別として、英語圏の諸国ではどんな種類の人間もしゃべっている、もとは1民族の言語にすぎない英語という外国語を白人崇拜思想に結びつけるからいけないのであって、ここで日本人は考えを根本から改める必要があります。それは「我々は世界で最も複雑で高級な言語である日本語を駆使する民族なのだ」という自負を持つことによって、英語を良い意味でナメてかかるのです。そうすると気が楽になります。なぜならば、英語というのは日本語と比較して話にならないほどに簡単な言語であるからです。

#### ■英語はあまりに簡単ながゆえに日本人は戸惑う

西洋人の社会では、日本語があまりに複雑なため「日本語はまるで悪魔の言語だ」と(ジョークとして)いわれているそうですが、これを逆に考えれば、我々日本人は、その複雑さきわまりない日本語に慣れきっているために、英語の簡単さに戸惑って、そのために英語はムツカシイ!と感ずるのである。英語が簡単だということは、主として文法の面からいえるのですが、確かにヨーロッパの各国語をみるのに、文法的にみて英語ほど簡単明瞭な言語はありません。スペイン語やドイツ語は文法が複雑ですけれども、それらは規則的に整然と変化しますから、覚えてしまえばあとはわりと楽なのです。ところが「簡単なことは案外覚えにくい」という心理的な一面があるばかりか、それを学問視して、学校では試験でちょっと綴りが違っても減点というカンベキ主義で教育するものですから、これでは生徒が萎縮するのは当然です。極端に言えば学校の英語教育では試験を全廃して、一種のアソビ感覚でやれば、日本人の英語は飛躍的に向上するでしょう。つまり「しゃべればいいんでしょ?」という非常に気楽に意欲を起こさせるような教育です。しかしそんな学校教育は望むべくもありませんから、せめて各個人で学習する場合はアソビ感覚で楽しくやることですね。難解な学問をやっているんだという悲壮感をツユほども起こしてはなりません。

#### ■徹底して暗記すること

何の分野でもそうですが、知識というものは頭の中にそれをインプットして貯蔵しておいてこそ、必要なときに引き出して応用できるわけです。英語もしかり、単語や文章、会話の言い回しなどは、とにかくかたっぱしから丸暗記しておかないと、いざというときに役に立ちません。「たんなる棒暗記ではだめだ、応用を利かせるように覚えなけ

ればだめだ」という人もあるでしょうが、そんなことは自宅にいて1人で外国語を学ぶときに感じる幻想にすぎません。むかしから毎年海外へ出かける私の体験からみますと、高度な学歴のある人ほど外国語がしゃべれず、黙り込んでいる人が多いようです。なぜか? その人たちが中学・高校・大学を通じて8年ないし10年は英語を学んだにもかかわらず、ウンともスンともしゃべれないのは、学校で教える英語が実地でほとんど役に立たないような英語であることもさることながら、多少とも役に立つ英語を教わったとしても(それは中学の英語がそうなのですが)、試験が終わったとたん忘れてしまって頭にインプットされていないからです。だいいち中学で一学年進級するたびに英語の教科書を捨ててしまいます。これでは暗記もヘツククレもありません。中学の英語教科書は最も役に立つ口語英語の宝庫なのに、なぜ内容を覚えようとしらないのか。ここが問題です。

#### ■英語は音声聴いて覚えること

英語の学習において印刷された参考書を読むだけでは、どうしても無理があります。だいいち頭にインプットする度合いが低いのです。そこで極力おすすめしたいのは、英米人が吹き込んだカセットテープかCDを聴きながら、それをまねて暗唱することで、これが最重要です。といっても人間が生活行動において必要とする言葉の言い回しのすべてを網羅したカセットテープはありませんから、そこは巧みに編集されたカセットテープとテキストと全訳のついた解説書のセットを買って、それを徹底的に暗記するのです。この頃は英語学習用のビデオのセットまで出ていますから視聴覚を応用して学べば最高です。こうして学習しながら、自分で英語でモノを考えることのできる小さな世界を作りあげるのです。これがまず絶対的に必要です。これさえできれば、あとはしめたもので、少しずつ英語の短文を覚えていって、その世界を広げてゆくのです。

テープなどを聴いてある程度英語の発音が正確にやれるようになったならば、あとは会話の本を見ながら、かたっぱしから会話用の短文を丸暗記してゆきます。以前私が出した「ひとりごとでマスターできる英会話」(主婦の友社刊)に収録された英文を徹底的に丸暗記して英会話の大家になった人がいます。それは古くからのGAP会員である首藤秀利君です。彼はこの本だけを持ち歩いてポロポロになるまで読み、暗記して、日常会話は全く不自由なしに流暢にやれるようになったと言っていました。英語をマスターすることとは、こんなものです。首藤君は大学の法学部を出た人ですから英語の専門教育を受けたわけではありませんが、英文科出の人を負かすほどに達者に英語を話す学習法は1冊の本の丸暗記であったわけです。ただし上記の本は絶版になって入手できませんからご了承下さい。ちなみに上記の本はアメリカ・サンフランシスコの日本書店に出てから、日本人留学生たちのあいだで評判になったと聞いています。しかし口語英語の優秀な本があります。それは学研発行の「ニューアンカー英作文辞典」です。この中には自分が言いたい口語の例文は大抵何でもありますから、必要な例文を書き抜いて覚えてゆけばよいのです。英語にも口語と文語の区別があるのですが、まず口語英語をしっかりと覚えるならば文語はしだいにわかってきます。

とにかく「丸暗記している者が勝ち、暗記していない者は負ける」というのは外国語習得の絶対的な法則であって、この法則は実戦の場で文句なしに顔を出してきます。「英語というのは日本語の方言なのだ、ひとつ方言を覚えてやるか」ぐらいの気軽な気持ちでやることですね。(以下次号)

# UFOと異星人の実態

ジョージ・アダムスキーとロサンジェルス大学の学生団との  
 対話における質疑応答(日時・場所は不詳)

(アダムスキー講演集 連載4) 久保田八郎訳

Q 異星人は(地球上の)どんな言語でも話せるのですか。

A そうです。彼らはいかなる言語でも話せます。あらゆる言語が話せるのです。メキシコ人に対してはスペイン語で話します。完全なスペイン語です。

私は異星人とのコンタクトが発生した国の人たちが多数の手紙をもらいました。ノルウェー語とかポルトガル語だの、その他の言語です。異星人は立派な英語やドイツ語を話します。何でも話せるのです。

実を言いますと、一人の異星人の男が私とコンタクトしたときのことです。私はもうポランド語はうまく話せません(訳注「アダムスキーはポランドの生まれで、幼児のときに家族とともにアメリカへ移住した。ほんの少しの言葉を覚えていただけです。そこで私が相手をテストするためにポランド語を口に出しましたら、相手はまるでポランド人みたいになさ早くポランド語で返答してきました。)

Q あなたは(別な惑星の)宇宙船に

乗ったとき、なぜ写真を撮らなかつたのですか。

A 彼らの宇宙船は常にパワーを放っています。そのパワーが放射されているときには写真を撮ることはできません。宇宙船がイタリアに着陸したときのことです。異星人たちはパワーを完全に切りました。そのときにはパワーのない宇宙船が着陸していただけで、いわば死物がいたにすぎません。そんな状態がいつか私の眼前で発生するかもしれない。少なくとも、いつかそうなる。彼らは約束してくれましたから、そんな状態になったら、もつと良い写真をたくさん撮るつもりです。

Q その宇宙船(母船や円盤)は、どんな種類の燃料を用いるのですか。

A 電磁気的な燃料です。静電気といわれるものです。われわれの地球を毎日動かしつづけているのと同じ。パワーです。あるいは、電気的な嵐が起こって電光がきらめくときに見るのと同じ。パワーです。

ちよつと考えてみなさい。電気的な

嵐の中に電光が起こるといふことは、われわれは人工的にそれを作り出す必要があることを意味します。その一つの電光を作り出すために、われわれは地球上のあらゆる発電所を利用しなければなりません。しかし宇宙船のよな。パワーは出てきません。

しかしこの電光はときとして夜通しつづきます。空間には無限のパワーがあるのです。それを異星人たちは利用しているのです。われわれ地球人もその方向に開発を進めているんです。

Q 異星人は色のついた服を着ますか。

A はい。彼らは色のついた服を着ます。その色を見ますと、それは全くの喜びをあらわしているように見えます。彼らが宇宙空間を飛行中のときでも、男女の異星人の制服は必ずしもみな同じ色ではありません。さまざまな色の制服を着ています。

Q あなたは、どれほどの期間中に母船や円盤の写真を撮りましたか。

A そうですね。私は一九五〇年に写真を撮り始めました。今でも撮っています。今ここでスクリーンに写して見せた写真類がそうです。もちろん、これらの写真は五六年以降のものです。

Q 異星人はなぜあなたの家を訪問しないのですか。彼らがメンジールやメキシコの紳士の家を訪問したように。

A 彼らは私の家を訪問しているんです。実を言いますと、今この家に二人の異星人の婦人が来ています(訳

注IIこの話から察すると、この質疑応答はパロマー・ガーデンズのアダムスキーの家で行なわれたらしい)。

あるとき一人の異星人婦人がここに一日間滞在したことがあります。ここへ訪ねて来る人たちも彼女を見ました。しかし彼女は彼女に向かって正体を聞くことを遠慮していました。

そこで、彼女が発言するときに、私は聞きました。

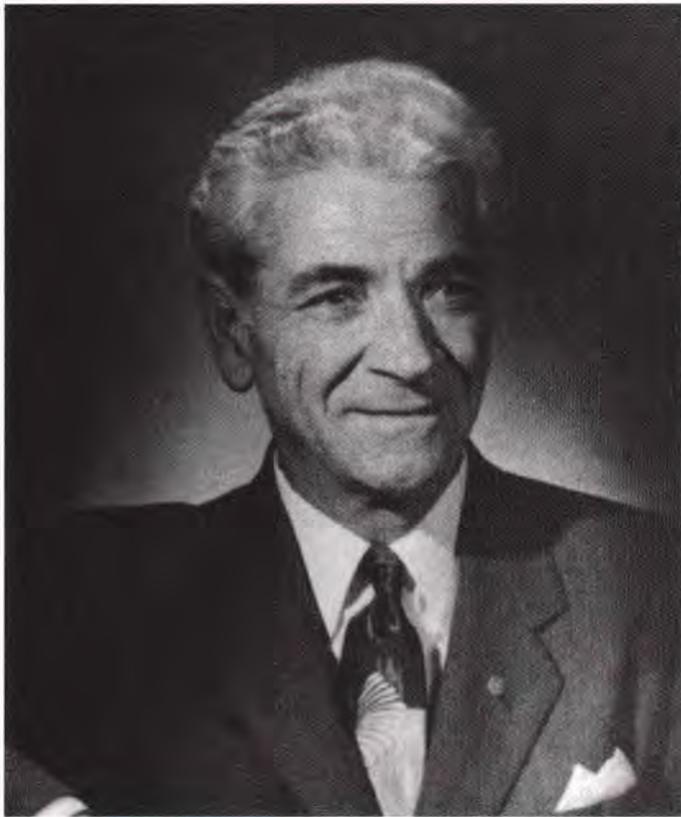
「ねえ、あんた。あんたがいつもここにいるために、人々があんたのことを聞きたがっているんだ。今、あんたがここを出発すれば、みんなが私を質問攻めにするだろうね。そのとき私は何といえよいいだろうかね?」

彼女は言いましたね。

「あなたが何を言おうと、同じことよ。あなたが私を異星人だと言っても、みんなはあなたを信じないでしょうし、異星人ではなかつたと言っても、やはり信じないでしょうよ」

(訳注「アダムスキーの書物から類推すれば、彼は異星人たちを神のように畏敬しているように見えるが、実際には、アダムスキーは彼らと全く兄弟のようにキサクに付き合っていたらしい。したがって彼らと話す言葉も友人としての言葉であつたと思われるので、そのように訳した)。

Q 異星人はあなたを別な惑星につれて行って一緒に暮らすことを望まなかつたのですか



▲ジョージ・アダムスキー（一九五五年頃撮影）

**A** 彼らが私を連れて行きたいければ、いつでも行きますよ。しかし、これまでのところでは、彼らは地球で私のための仕事を持っていらっしゃるんです。だから彼らは私を別な惑星へ連れて行きたがらないんです。たぶん私はロクでもない人間なのでしよう。へたをすれば、あらゆることをひっくり返すかもしれません。（訳注Ⅱこれは冗談で言ったもの）。

**A** いいえ。異星人たちは地下で働いてはいません。しかし、はっきり言いますが、地球の地上で働いている異星人は沢山います。ある良い場所にもいます（訳注Ⅱこの「良い場所」というのがどこを意味するのか不明）

**Q** あなたはレックスとレイというスタンフォード兄弟をどう思いますか。

**A** あの兄弟は二人の少年です。ひじょうにいい子たちで、たいへん真面目です。彼らも立派なUFO写真を撮ろうとして頑張っています。そして一枚

撮りました。私はそれを見ています。（訳注Ⅱスタンフォード兄弟に関しては、六〇年代に兄弟と同じ町に住むUFO研究者から訳者宛連絡があったが、土地では鼻つまみ者になっているというネガティブな情報であった。アダムスキーが褒めたたえたのは、彼らが「ゆがむ」前か、または公開の席のために外交辞令として言ったとも思われるが、真意は不明）。

**Q** 異星人はなぜ白昼ロサンジェルスの上空を飛ばないのですか。飛べば誰も否定しないでしょうに。

**A** 彼らは何度もロサンジェルスの上空を飛んでいるのです。多くのレポーターがロサンジェルズから来ますが、UFO群が接近しながら飛んだことがあり、これはブロードウェイで人々が見ています。しかしどれほどの人が上空を見上げるかは疑問ですね。人間というものは、自分の両足が地面上を動くのをいつも見ているのであって、頭を上に向けようとはしません。

**Q** もし軍部が征服の考えでもって月面に着陸したら、どうなりますか。

**A** 始めから軍部がそんな考えを持つたとすれば、彼らは着陸できないでしょう。それについては、まず次のような話をしましょう。

（訳注Ⅱエドワード・ルッペルト空軍大尉は一九五五年に「UFOに関する報告」と題する本を出した有名なUFO問題研究者。当時の米空軍のプロジエクト・サインというUFO調査機関を痛烈に批判した。この機関は後にグラッジと改称し、さらにプロジェクト・ブルーブックと改称して、ルッペルトはその責任者になった）

彼は私にある質問をしたのです。そして彼は火星に関して同じ質問をしました。そこで私は言ったのです。「もし地球人が両手を広げてそこへ行くならば、異星人たちも両手を広げてわれわれを歓迎してくれるでしょう。しかしわれわれが征服の意図をもって武器を持って行くなれば、そこへは行けないでしょう」と。

彼が言いました。

「私はそれに同意しますよ」

これがプロジェクト・ブルーブックのヘッドだった人です。

**Q** 火星から来るミツバチがUFOを操作する知性だという説について、ご意見を聞かせて下さい。

**A** それはたいへんいいことです。私はミツバチが知性を持たないとは言いません。大抵の動物は人間よりも利口です。人間は何も節約してはいないんです。われわれは多くの時間をむだにしていますが、一方、ミツバチは冬のあいだ蓄えをし、未来にそなえて食べ物を持っています。しかし人間はと

きどき飢えたりします。だからミツバチはその点ではうんと利口ですよ。

しかし宇宙船をミツバチが操るとは、これはいけません！ ハード氏はそんなことを本に書いて、それを私に送ってくれました。「全体的にひどい事を書きましたね」と私は彼に言っちゃったんです。彼はドイツ人科学者のミツバチに関する理論を取り入れたのです。彼はそれを認めましたが、あとの祭りでした。

Q 別な惑星の宇宙船は水面下を潜りますか。

A はい、それらは水面下を潜ります。最近あなたはたぶん記事を読んだと思います。未確認の物体が探索されているという記事です。一五隻から成る駆逐艦の艦隊がサンディエゴを離れてサンフランシスコへ向かったのは、ゴールデンゲイトの近くに浮上したと思われる物体を探索するためです。そうです、UFOは水面の中でも外でも行動できるのです。

一つ実例をあげましょう。朝鮮戦争中のことで、この事件は当時米海軍によって新聞に掲載されたものです。その記事の切り抜きは私の家にあります。米海軍が発行した新聞によれば、仁川湾で番兵が立っていたとき空は晴れていました。突然二個のミサイルが番兵の前で水面に落下して、高さ約一〇〇メートルの水柱を空中にはねあげたというのです。それ以後のことは書いて

てありません。掲載された記事はそれだけのことです。

しかし朝鮮戦争が終わったとき、私はペンデルトン基地の多くのレーダー兵たちを知っていました。彼らはよく私の居所へやってきたものです。大抵の人が何度も来ましたね。

彼らも朝鮮戦争に行つたのですが、レーダーの操作をやっていたために助かったんです。以下は彼らが私に話してくれた事です。

あの事件が起こったとき、ただちに多数の装甲車がその地域へ行つて、その二個のミサイルを捕獲するために探索を始めました。それを行なつていたあいだレーダーは作動中でしたが、レーダーは二個のミサイルが浮上するのをキャッチしたんです。

するとミサイルは駆逐艦の下まで来て、それから再度空中へ飛び上がったというわけです。この部分は新聞には掲載されませんでした。

ミサイルが水に飛び込んだときの衝撃で駆逐艦の装甲鉄板が凹んだのです。三カ月後にその船は修理のためにサンディエゴへはいつて来ました。

Q 神がUFOと関係があると思いませんか、それともUFOは別な惑星で別な人間によって造られたものなのですか。

A 神は人間を通じて働きます。そして人間がすることは、神がそうするよ

うに許しているのです。キリスト教の聖書には、他の教義と同様に、人間は神の意志なしには一つの物さえ動かすことはできないと述べてあります。それは神の意志そのものなのです。

Q ワシントン市の上空を多数のUFOが飛んだ事件は別として、政府にUFOの情報を公開させるには、どうすればよいでしょうか。

A そうですね。私は政治家ではありませんし、政治にかかわりたくもないんですが、私にわかる唯一の解決法は、あなた方は代議士を選んでくれるわけですから、UFO問題について彼らに話してみることでいいですね。

Q UFOを目撃できる特殊な場所がありますか。

A いいえ、全然そんな場所はありません。あなた方は大抵どんな場所でもUFOを見れるでしょう。自宅を出て砂漠地帯へ行くとします。そして砂漠に立っているときに、UFOはあなたの自宅の上空に現れるかもしれません。一年ぐらい前のことですが、一機の円盤がヴェニの近くのある場所へ降下して、樹木のてっぺんを折ったことがあります。UFOはある婦人の家の芝生に着陸しようとしたんです。

しかしその婦人は着陸するのを嫌がり、そのために芝生が荒らされると、映画製作会社がやってくるので、そのために芝生が荒らされると思つたんです。

そこでその物体は隣家へ行つて、樹木の一部をくつつけたままそこへ着陸しました。その家の男は円盤などを全く信じなかつたんですが、それでもそこへ着陸したんです。

すると男が飼っていた犬が、円盤から出てきた異星人の服のズボンに噛みついて、振り回そうとしたんです。放牧場のジャック・マホーニーが、この事件のことを実際に知っています。彼は私の家へよく来るんですが、彼もその話をしてくれました。彼はそこで見ていたんです。

おお、そうだ、UFOはどこにでも着陸するでしょうし、どこでも見れるでしょう。見るための特定の場所というものはありません。

Q パサデナは一九六〇年に大洪水に見舞われるでしょうか。それは一九六〇年に発生するのですか。異星人とコインタクトするには、どうすればよいのですか。われわれは今じょうに低次元の状態にあるのですか。(訳注)パサデナはロサンジェルズ北部郊外にある都市。これは誰かの予言らしい)

A 最初の質問はワシントンの大政治家たちに属する問題だと思います。全く私の問題ではありませんが、つぎのように言えます。

パサデナが大洪水に見舞われることはありません。もし大洪水があるとすれば、パサデナの危険度はロサンジェルズやその他の都市と同じでしょう。みんな同じだと思います。

一九六〇年に何が起るか起こらないかは、わかりません。This Weekという雑誌を私は二週間前に読んだことがあります。その記事によると、百万年か一〇億年かたつうちに、全地域が冷凍化されるだろうというのです。アメリカのほとんどは氷河時代にはいるかもしれません。

次に異星人とコンタクトする方法ですが、これも誰にもわかりません。異星人は彼ら自身の（思いどおりの？）人々を選んでいくようです。彼らは一定の階級の人々を選びません。私は知っていますが、異星人は土方、鉄道員、その他の労働者ともコンタクトしています。したがって、異星人が誰とコンタクトするかは、わかりません。

Q ダナ・ハワードの理論に関してはどうですか。  
A 私は、ダナ・ハワードの計画は単なる夢にすぎないことを知っています。（訳注）ダナ・ハワードは戦後アメリカで自称コンタクティーとして名をあげた女性。そのコンタクト体験なるものは、ひどく心霊的で現実ばなれしたものであった）

彼女はマクギニスにそれを送ったときに、マクギニスを叔母と呼んでいました。

（訳注）ルーシー・マクギニスは多年アダムスキーの助手をつとめていたが、サイレンスグループのワナにはまって離反した女性。このためアダムスキー

は一時期不利になった。ダナ・ハワードの物語は複雑だが、心霊的な作り事であることは明白だった）

あれは、他のどんな事よりもUFO問題を傷つけることです。

UFO問題が真実そのものであるならば、それは私が今立っているこのコンクリートの床と同じほどに真実なはずです。それにもかかわらず、こんなおかしな物事が起こってくるのです。あれはUFO問題全体をひどく傷つけるもので、UFO問題のすべてがバカにされるものになるのです。

私はUFO問題を高度に尊敬すべきこととして考えてきました。その問題が起こっているのは神の意志によるのです。UFO問題が起こるのを人間が望んだからではありません。なぜなら、人間が少しも望んでいなかったのに、UFOは来たからです。

私はUFOなるものを誰かのオモチャにするような範疇はんちゆうに入れたくはありません。私自身は臆病者ではありません。ただこのことをよく知っているのです。いつか私は自分のメーカー（神）に直面する必要があるのです。その神の法則を誤用したくはないです。ね。

ここで言いたいのは、あれは（ダナの問題は）真実ではないということですが、もしそれを霊的と呼びたければ、あなた方が吸う息そのものが霊的です。ラジオやテレビに入ってくる電波もわ

れわれはエーテル波と呼びますし、そうなればやはり霊的です。

もう一度言いますと、この点については物質化と非物質化の問題があります。もし異星人が物質化したり非物質化できるのなら、彼らはひどく愚かであるということになります。

（訳注）大気圏外から来るエイリアンは消滅して靈魂たまごみたいになったり、ふたたび肉体人間として出現したりするという説が流れていた。そのことに言及したもの）

実際はこうです。彼らが非物質化するのなら、なぜ彼らは地中から鉱物を掘り出して金属を作り、二、三年もかけて巨大な宇宙船を建造したりするのですか。しかも危険のともなう宇宙飛行をやったりします。彼らも事故にあっては死なうのです。

私が今、物質化したり非物質化できるとすれば、ユナイテッド航空の事務所へ行つて、ニューヨーク行きにいよくの切符を下さいと言え、私は愚か者になつてしまします（訳注）靈魂のまま空中を飛ばよいからだ。切符を買うとはなんとバカな話でしょう！

この手のたわごとにだまされる人の気持がわかりませんね。まったくわかりません。UFO問題は現実の事であるからです。神秘などはありません。われわれが現実という基礎に定着するまでは、自分で真実をつかむことはできません。神秘は絶対に真実ではない

からです。それは常に神秘的なものです。（訳注）以上でアダムスキーが心霊的なコンタクト・ストーリーを徹底的に否定していることがわかる）

Q なぜ地球人の女性がコンタクトされなかったのですか。

A やあ、すみません。新聞は必ずしもすべての情報を伝えるとは限りませんが、女性で異星人とコンタクトしている人たちがいるんです。実を言いますと宇宙船に乗った女性もいるんです。男性たちと同様にね。男女のあいだに差はありません。異星人はあらゆる人間を人間として尊重しています。同じ宇宙の兄弟姉妹とみているのです。

Q あなたは次の本をいつ頃出しますか。

A まだ書いていません。来年の春には出したいと思っています。

Q 異星人は哲学を勉強しますか。

A 彼らはそれを勉強しません。彼らはそれを生かしているんです。それを生かすにつれて、日々がより大きな未来ともなつて展開するのです。そして彼らはその未来の中に前進しつづけています。

Q UFOを別な惑星から来る宇宙船であると政府が認めている五カ国はどこですか。

A Q そうですね、ブルジル、メキシコ、ベネズエラ、それにもう二つあるのですが、思い出せません。でもその二つは中南米の国々です。

Q メキシコの運転手の事件は真実なのですか。

A 真実です。私は後に彼に会ったとき、メキシコ政府へ彼をつれて行きましたが、そのとき政府に対して講演を行ないました。その男は誰も知らないある事について発言しましたね。誰も知らない物事です。それによって真実のコンタクトであることがわかるのです。異星人が地球人とコンタクトするたびごとに、最初に必ず聞かされる言葉です。彼らが来る理由についてですね。

(訳注) その合い言葉が洩らされていないので、だからその問題は今まで一般の人にはわからなかったのです。あなた方にも洩らされなかったわけです。もし洩らされれば、真実のコンタクトかニセモノかを見分けることができなくなります。したがって、われわれはその言葉をキイとして秘密にしています。

その男がそれを言ったとき、私は一人言を言いましたね。「これがそうだ」と。そこで私は彼をメキシコ政府へ連れて言ったのですが、彼も講演について来ました。私が先に講演し、つづいて彼が話しました。

Q なぜあなたは自分に関連したこんな情報のすべてを理解できるのですか。あなたは何者ですか、どのようにしてUFOに関心をもつようになったのですか。

A 自分でもまったくわかりません。これに答えることは不可能ですね。私こそ、あなたがどうして八百屋になったのか、その他の職につくようになったのか、わからないのと同じです。そんなもんです。自分でもわかりませんから、答えようがありません。異星人が私に話してくれる事は理解できます。そして彼らが私にこうせよと話してくる事や、私が正しい事をすれば、失敗はありません。

Q 月に引力がないとすれば、岩はどのようにして落下するのですか。  
A ただちに本を出して、もう少し読んでみて下さい、そうすれば月にある程度の引力があることがわかります。

Q レイニア山事件の最終レポートまたは推論はどんなものですか。  
(訳注) これは一九四七年六月二四日、ケネス・アーノルドがワシントン州カスケード山脈のレイニア山上空を自家用機で飛んでいたとき、九個の輝く円盤が編隊を組んで飛ぶのを目撃した事件)

A それについてのレポートがありませんので、答えることはできません。  
Q あなたはどんな種類のカメラを使用されますか。

A 私はキーストンの一六ミリ撮影機を使用します。一〇〇フィートのリールがついています。主に夜間にセットしますが、もちろん昼間も持ち出します。ライトメーターを持っており、どんな天候の日であろうと、朝、まずそれをセットするのです。いつでも持ち出せるように用意していて、携帯に便利なものですから、何かが出現したらそれを用います。使用に関しては自分で学ぶ必要がありますね。

Q UFOが地球人によって捕らえられたり破壊されたことがありますか。  
また、地球の科学者が異星人からアドヴァイスや指導を受けたことがありますか。

A 私は一度ある科学者と話したことがあります。その人はドイツ人科学者で、ニューヨークで米政府のために働いています。彼は言いました。「ジョージ、われわれは今までやってきた事のすべてを自分たちの手柄にするわけにはゆかないぞ。われわれは援助されているのだ」

「誰によって？」と私。  
彼は微笑しました。それでわかったのです。  
(訳注) この科学者というのはロケット開発の先駆者、ヘルマン・オーベルト教授)

もう一つ質問がありましたね。私はホワイトサンズ(ロケット実験場)で技術者として働いていた人を知っています。そこへ一機の円盤が墜落して、中に乗っていた人間は皆死にました。技術者たちは円盤の残骸のスクラップを集めに行ったということです。

別な例もあります。あなた方はたぶんメキシコ市に円盤が着陸したという記事を読んだことがあるでしょう。ロサンジェルズから来た男が円盤の一個の金属を持ち帰ったのですが、そのためにひどく非難されて、事業のほとんどを失ってしまいました。

Q あなたの説明では引力とは何ですか。  
A ほぼ、私がそれを知っていれば、生命にたいする解答がわかりますよ!

Q UFOはわれわれの太陽系から来るのですか。  
A そうです。これまでは別な太陽系から来るという報告はありません。UFOはすべてわれわれの太陽系から来ているようです。ただし、これは別な太陽系からは来ないという意味ではありません。だが今までは来ていませんね。

Q あなたは最後の本を出してから、さらに宇宙旅行をやりましたか。  
A それは以前にお答えしました。

Q あなたがさきほど映写されました写真のいずれも、望遠鏡を用いて撮られたものですか。  
A 最初にお見せした写真がそうです。あれは私のUFO探求の初期の頃に望遠鏡で撮影したものです。

Q 金星の気温はどんなものですか。  
A 私はまだ金星へ行っていないので、わかりません(訳注)後にアダムスキーは金星へ行った。その体験は新アダムスキー全集第五巻「金星・土星

探訪記』に出ている)

しかしその気温は地球と大差はないと聞いています。こんなふうには答えてみましよう。私がメキシコ政府で講演をやったとき、そこには各省の長官たちがすべていました。私は今それらをすべて知っています。彼らはみな私

の親友です。

天文長官が私の右側に座っていたのですが、彼は次のように言ったのです。「アダムスキーさん。アメリカの天文学者たちのどこがいけないのですか」「なぜそんなことを聞くんです?」「彼らが真相を国民に知らせればいい

ではありませんか」

そこで私は言ったのです。

「あなたは国民に何と言いましたか」彼は言います。

「あなたはメキシコ市に滞在しているあいだに苦しんではいませんか」

「いいえ、私は今のところ走ることも歩くこともできませんが、ここへ来てから二週間後には高地の気候に慣れて家でやっていたことをそのままやれるでしょう」

(訳注)メキシコ市は標高二二〇〇メートルの高地にあるため、ここへ来る旅行者は気圧に慣れるまで激しい運動をひかえる必要がある)

長官が言います。

「そのとおりです。しかしあなたは苦しくはないのですか」

「全然苦しくありません」

そこで彼が言います。

「これが地球と金星との大気条件の差です。メキシコ市と低地との差でもあります。われわれはそのことを知っているんです。しかしアメリカの天文学者連が国民にそのことを知らせない理由がわかりませんなあ」

Q 異星人たちが宇宙空間から地球と月を撮った写真を、あなたにくれたことがありますか。

A いいえ、ありません。しかし私は素晴らしい写真を見たことはありません。彼らは私にそれをくれませんでした、彼らが宇宙空間で撮った写真を見てい

ます。

われわれは宇宙の写真を撮ることはできません。同じ宇宙といっても、コズモスという宇宙は写真に撮れませんが、ユニヴァース (Universe) という宇宙なら、あらゆるものの写真がとれます。ユニヴァースは限定されていますが、コズモス (Cosmos) は始めも終わりも意味しないからです。

多くの人が永遠をあらわすために、ユニヴァースという言葉を用いますが、これは間違っています。よくユニヴァーサル・ラングエージ (万国共通語) といって、共通の言語のことをあらわしますが、これは地球だけに限定されたものです。別な惑星群は、たぶん共通の同じ言語は持たないでしょう。われわれは彼らとともにやってはゆけないでしょう。彼らが何をしゃべっているかは、わからないでしょうからね。しかしコズモスは違います。コズモスという宇宙は始めも終わりもない永遠を意味するのです。限定されないものです。一方ユニヴァースは「真実」としての一部分です。「事実」は一部分なのです。

あなた方が発するいかなる言葉も、「事実」です。しかしそれが絶対的な「事実」であっても、異なる物事に相対しているのです。絶対的な「事実」とは、疑惑が存在しない場合にのみ事実になります。疑惑が存在する場合は事実ではありません。(以下次号)

### ▲月面付近を飛ぶUFO群

1951年5月16日午前9時、アダムスキーが6インチ反射望遠鏡で撮影したもの。このUFO群の活動は他の人達も確認した。



# 謎の古代マヤ遺跡とUFO

★日本GAP企画第一五回『中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅』紀行

久保田八郎 （日本GAP会長）

今年八月一二日より二二日まで日本GAPは予定どおり中米のマヤ遺跡見学を実施して、大成功裡に無事帰国した。

日本GAPが企画してメキシコを訪れるようになってからこれが四度目だが、それ以前に筆者経営の出版社時代の一九七七年に一度メキシコ行きを企画して、これに参加したのはほとんどGAP会員なので、実質的には五度目となる。

行くたびに同国が近代化されて、一九四九年に公開されたメキシコ名画『真珠』に見られるような大戦前の古い時代の土俗的なエグゾティシズムは薄れてゆくのがわかる。

しかし私たちの旅はたんなる異国情緒の満喫ではなくて、世界史上最大の謎の一つであるマヤ遺跡を見学することにある。謎だから面白いのだ。いつ

▲サンフランシスコ金門橋にて。前列右より二人目タニエル・ロス氏、その左パメラ夫人。左端筆者、その右田中正氏。

までも謎であってほしい、との思いをこめながら、まずサンフランシスコに一日の到着して、ダニエル・ロス氏夫妻の迎えを受けた。

空港で一同に紹介してから、夫妻も我々のバスで市内観光に向かう。あいにくサンフランシスコ市内は霧が立ちこめて、トゥイン・ピークスへ登るのに、下界はよく見えない。世界一美しい都市の一つといわれるこの町は昔来て知っているけれども、やはり残念だ。夜はホテルの食堂で夫妻と大いに歓談した。ロス氏はアメリカにおけるアダプスキー研究者としての第一人者。膨大な資料を収集しており、『UFO—宇宙からの完全な証拠』と題する本を出している（日本語版は中央アートの出版社から刊行中）。年齢にはかなり差があるけれども私とは古くからの親友で、東京の総会にも二度ほど来たことがあ

る。

ロス氏は今年一月末に私のデザートセンター調査行に参加したから約半年ぶりだが、パメラ夫人とは二年ぶりの再会。久しぶりに彼女の流麗な西部英語を聴いて心が和んでくる。

## 陽気なメキシコ民族音楽

翌一四日、サンフランシスコ空港で夫妻と別れてメキシコ行きの機上の人となる。メキシコ空港では税関でひっかかった。ここには特殊な押しボタンがあつて、ゆっくり押すと赤、勢いをつけて押すと青の色が出る。麻薬を隠しもっている人は押すのに自信がないから赤が出る。私の場合も疲れていたせいか赤が出たので係官が訊問に来たが、すぐに釈放してくれた。一種の心理作用の応用だが、あまり効果はないだろう。

夜は久しぶりにメキシコ料理店でメキシコ民族音楽の生演奏を聴きながら一同で食事をとる。メキシコの民族楽団は大別してマリアッチとハロツチョに分かれる。前者はトランペット、ヴァイオリン、ギターその他で構成され、後者は男達全員がギターを弾きながら民謡を二部または三部で合唱する。いずれもメキシコ独特の異国情緒に満ちた陽気な民族音楽である。

一国の国民性や気質はその国の民族音楽の旋律に現れているというのが私



▲グアダルーペ大寺院。地盤沈下のため傾いている。  
写真/久保田八郎

の持論なのだが、メキシコ人は底抜けに陽気であるから、民謡の旋律もメイジャーばかりでマイナーはほとんどない。

この料理店のマリアッチ楽団の程度は相当なもので、ガリバルディー広場で夜通し演奏している連中などの比ではない。私が出したリクエスト曲「ランチョ・グランデ」も見事な編曲と演奏を示した。これはメキシコの代表的

名曲で、この演奏が始まると、客席からも「ララーアッハー」というかけ声が飛ぶ。これはグイッペと呼ばれる独特なもので、メキシコ民族音楽に不可欠な合の手だ。昔、革命戦争で農民に酒や麻薬を飲ませて、このグイッペでけしにかけてかり集めた名残りが音楽に残ったという。

## デイエゴの奇跡

翌日は市内見学。首都名は国名と同じメキシコ。バスであちこちの名所旧跡を回り、昼前にグアダルーペ大寺院へ行く。日曜日なので参詣人でごったがえしている。この寺院建立には次のような経緯がある。

アステカ帝国の首都テノチティトランがスペイン人に征服されてから一〇年後の一五三一年、アステカの神殿跡のテペヤクの丘に、ホアン・デイエゴというインディオ(原住民)の男がいたとき、突然岩の陰から一人の女性が現れた。皮膚は褐色で容貌はインディオのそれだ。長い衣をまとっている。

女性はデイエゴに向かって自分が聖母マリアであることを仄めかし、大司教に自分のための大聖堂を建てるように進言せよと、インディオの方言であるナワトル語で話しかける。デイエゴはただちに大司教へその旨を伝えるが、相手にされない。

再度出現した聖母に結果を伝えると、

テペヤクの丘にバラが咲いているから、それをマントに包んで大司教の所へ持参せよと言う。デイエゴが丘へ登ると、不毛の地に不思議にもバラの花が咲き乱れていたのだ。それを包んで大司教のもとへ持って行くと、開いたマントに聖母の姿が写真のように印画されて浮かびあがっている。

驚いた大司教はこれこそ聖母マリアの奇跡だと信じて、その地へ大聖堂を建立した。以来、この話は聖母グアダルーペとしてメキシコ中に響き渡ったのである。

## UFOが操作?

以上はフランス・ルールドのベルナデットの体験と酷似しているが、デイエゴが会った聖母は褐色の皮膚であった。

ルールドやポルトガルのファティマの例でも考えられることだが、こうした聖母出現は心霊やオカルト的なものではなく、上空のUFO(スカウトシップ)からの操作によると思われるのである。つまり特殊な放射線で立体像を見せる方法だ。そしてイエスの愛の法則に従って生きるように仕向けるのであると思われる。

しかし結局は宗教上の奇跡とされ、美化されるのであって、似たような例は他にもいろいろある。ルールドやファティマと同様に、グアダルーペでも

奇跡的に難病が治る例があるらしい。これはたぶん「ここへ来れば必ず治る!」という病人の熱烈な信念の作用によるものだろう。治らない人も沢山いるようだ。

一九七八年にルールドへ行つたとき、私は有名な聖泉の水を多量に飲んだが、慢性持病に全然効かなかった。

八二年の八月にファティマへ行つたときには、三人の主人公の一人であるルシアの家の裏の井戸から出る生水が奇跡を起こすといわれていたが、私は気持が悪くて飲まなかった。

## テオティワカンの大遺跡

グアダルーペの次に私たちはメキシコ市北方約五〇キロの位置にあるテオティワカンへと向かった。

この目玉は太陽のピラミッドと月のピラミッドで、「太陽」は高さ六五メートル、正方形の底辺の長さは二二五メートルあり、「月」はこれより一回り小さい。

ここは紀元前後頃に建設された巨大な宗教都市で、四世紀から七世紀にかけて繁栄の極に達した。いかなる種族が住んだかは不明だが、七世紀末に謎の種族によって滅ぼされ、廃墟と化した。後年、ここへ侵入したアステカ族がこの偉大な遺跡に畏怖感を抱き、神殿ピラミッドに太陽とか月とかの名称を与えた上、太陽の前の広い大通りを



▲テオティワカンの太陽のピラミッド。 写真/久保田八郎 ニコンFE2・28-70ズーム・フジクローム100ロプロ。

「死者の大通り」と名づけたのである。テオティワカンは後に隆盛を極めたマヤ文明に多大な影響を与えたいらしいが、すべては謎に包まれている。「太陽のピラミッド」を修復したとき、元は五層だったものを監督がうっかりして四層にしてしまったという逸話がある。私自身はここへ四度来ているので、見慣れたせいか感動は起こらないが、昔ここにUFOが関係していたというような外国の文献を思い出して複雑な気持ちになる。

UFOはともかくとして、洋の東西を問わず古代人の技術には驚嘆のほかない。高さは低けれども日本の仁徳天皇陵も規模からいえば相当なものだ。一同がピラミッドへ登って下りた頃にスコールが来た。ここは夏の遅い午後にはかならず俄か雨が降るから、午前中に来るのがよいようだ。

## スペイン人の宗教政策

翌日は昔銀山で栄えたタスコの町へバスで行く。途中、クエルナバカという覚えやすい町へ寄る。

一時過ぎにタスコへ着く。ここも二度目。町は昔のままで、赤い屋根に白壁のコロニアル風の古い家が多い。外国の家のデザインに強い関心をもつ私は、さすがスペイン風だと感心していたが、ガイドさんの話によると、なんのことはない、白壁にしたのはタラン



▶タスコの風景

写真/久保田八郎

チュラという毒グモやヘビなどが壁にへばりついているのを発見しやすいためだという。

ここでサンタ・プリスカ教会へ入る。昔銀山で大儲けをやったスペイン人ホセ・デ・ラ・ポルダの奇進になるもので、一・五トンの金を使用したというだけあって、金ピカの絢爛豪華な建築だ。ここでの見所はこれぐらいいかないが、往時、中米を占領したスペイン人がインディオに対して強力な宗教政策をとったことがわかる。

ここからメキシコ市へ通じる道路は、一六一三年、伊達政宗の家臣、支倉常長が通った道そのものだという。当時、最初にアカプルコへ上陸した彼は、家来一八〇人と共に一八台の馬車に分乗してメキシコ市へ向かったのである。以前に来たときは未開発の道路だったが、今は立派に舗装されて、対向車

線も増えている。

## 壮麗なマヤ文明

翌一七日、早朝メキシコを出発して小さなプロペラ機で隣国グアテマラへ向かい、一時間後にフローレス空港へ着く。ここからバスでテイカルへ向かうのだが、まず途中でワシントン遺跡へ行く。今回はメキシコ・ユカタン半島を省略したので、ここからいよいよ古代マヤ文明圏に入ることになる。

マヤ文明は前一五〇〇年頃から興隆し、前一三〇〇年頃に前古典期にはいり、紀元三〇〇年頃から九〇〇年頃までが後古典期となり、特に六〇〇年から三〇〇年間の後古典期後期は爛熟して繁栄の極に達した。

しかし、九〇〇年初頭、マヤ人は中米一帯から、突如として姿を消す。壮大な神殿ピラミッドや華麗な宗教都市のすべてを放棄して行方不明になるのだ。理由はすべて謎。だからマヤにとりつかれるのだ。

ワシントン遺跡は紀元前より存在していたといわれる。しかも新しい石で修復しておらず、オリジナルそのままの古い石が残っているから、非常に価値がある。ここは私も初めてなので、目を皿のようにして見て回った。だいいち、メキシコ市へ観光に来る日本人は年間三万人いるが、このワシントン遺跡まで来る人はマヤ考古学

▲ワシントン遺跡。

写真/久保田節



者の一、二人程度だとガイドさんが言う。途方もなく貴重な遺跡を見たことになるらしい。これは来た甲斐があった。

## 湖畔からUFOを目撃！

午後早くベテン・イツア湖畔のホテルへ入る。眺望絶佳。暮れてからベランダに出て暗い湖畔を見つめてまもなく、右手上空に赤い閃光がきらめき、次に左手上空に赤い閃光がきらめいた。同一物体かどうかは不明だが、UFOに間違いない。

翌日、清水正君も同じホテルの自室から湖を見つめていたときに、水面に輝いていた一個の光体が飛び上がって弧を描いて飛んだという。私の目撃とは別な時刻らしい（一九頁を参照）。

しかし、それより前に、アメリカからメキシコ市へ着いた夜、佐々木八郎君は風邪をひいたのか、ひどい頭痛がするので、床についてから、天空のスペース・ピープルに「なにとぞ助けて下さい」としきりに想念を放射していたところ、深夜二時頃に、突然強烈な光が部屋の窓の外から室内へ照射されて驚いたという。そしてそれ以来気分が良くなったと話してくれた。たぶんUFOが窓の外へ飛来して援助の波動を放射したのではないかと言う。

ガイドさんの話によると、昔から今に至るまでメキシコやグアテマラ一帯

にはUFOの出現や着陸事件が頻発しているという。この国土に何かの原因があるのか、住民の想念波動と関係があるのかは不明だが、古代マヤの時代から宇宙の何かの関連があったらしいことは次の事情で首肯できる。

それはこうだ。アダムスキーは存命中に壮大な計画を立てたことがある。大探検隊を編成してメキシコ・ユカタン半島の古代マヤ遺跡を探索するというもので、埋蔵されている何かの宇宙的な物を発掘しようとしたらしい。この報に接した私は家土地を売ってでも金を作って参加したいと思っていたが、なぜか計画は中止された。資金難かメキシコ政府の不許可によるものかはわからぬが残念なことであった。

これからみても古代マヤ文明が何かの宇宙的な要素をおびていたことは間違いない。ただしデニケンの説とはいっさい無関係である。アダムスキーは異星人から古代マヤ文明に関する情報を与えられたものと私は確信している。

## テイカルの大遺跡

ここも昔一度来たのだが、鮮明な記憶が残っていないので、初心に返って見学した。このテイカルはかにアクセントがあつて、そこを高く発音する。

紀元三〇〇年から八〇〇年にかけて古代マヤ最大の大祭祀センターとして建設された宗教都市で、博物館で見た

復元模型を見ると、一六キロ平米の土地に約三〇〇〇の石造建造物を擁する驚異的な大都市であったが、九〇〇年初めに突如住民は消えた。

現在残るのは端っこの中央広場に残る一号神殿ピラミッド、それと相對して建つ二号神殿ピラミッド。その周囲に各種の建造物が修復されており、少し離れたジャングル中に未発掘の三号、四号、五号が首だけ出してそびえている。

一号は高さ五一メートル、ほぼ完全に修復されているが、二号は現在足場を組んで修復工事中。いずれも七〇〇年前後の建立。四号になると高さ七〇メートルあり、ほとんど未発掘なので全体が樹木で覆われている。したがって、頂上まではふもとかからかけてある梯子を伝わって登って行く。昔は私もここを登ったが、てっぺんから眺める一面の大ジャングルは圧巻。

マヤの時代には現在のようなジャングルはなくて、整地された平地だったらしい。二対のピラミッドを見ただけで往時の壮観さがしのばれる。考古学的な詳細は一切省略しよう。

## ムー大陸の後裔？

古代マヤ人はすごい文化を有していた。あの大昔から太陽暦を用い、数体系でゼロの概念をもっていた。天体観測もやっていた跡はパレンケやチチェ

ンイツアの遺跡に残っている。

昔のイギリスの有名な探検家ジェイムズ・チャーチワードによれば、古代マヤ族はムー大陸の後裔だという。中央一帯に分布していたらしい。

メキシコ・ユカタン半島のウシュマル遺跡には金星の神殿があり、この壁にはムー大陸を記念して建立されたという象形文字が残っていたとチャーチワードは書いている。昔最初にその遺跡へ行ったときには私もたしかにその文字を見たけれども、一昨年に行ったら、その部分が壁から剥ぎ取られていた。

チャーチワードの学説の八五パーセントは正しいとアダムスキーが言ったというのを昔アメリカで聞いたことがある。彼は多数の書物を残しており、その多くの翻訳書が大陸書房から出ているが、倒産して絶版になった。

## 大ジャングルの中を歩く

このあと一行は大原始林の中を約四〇分ほど歩いたが、これは良い体験になった。高さ数十メートルある樹林の枝に野生のサルがいて、枝を折って落としてくる。あちこちに鳥の奇声が響いて、まさに「ジュラシック・パーク」そのものだ。現在はジャグラーのような猛獣がいなから安全に歩けるし、大自然を綿密に観察できる。この素晴らしい原始林が人間の手で破壊されな

▼ティカルの中央広場。右側が1号神殿ピラミッド。左が2号。 現地資料。



いことを祈りつつ樹林に向かって「元気で成長して下さいよ」とテレパシーで呼びかけながら出て行った。

夕方フロレス空港から再度プロペラ機でグアテマラ市へ向かう。カナダ

製のANアギラ高翼双発機で、エンジンは六五〇馬力だとガイド氏が教えてくれた。戦時中、航空隊にいた私はプロペラ機になると興味がわいてくる。ガイドのアルトゥーロ・ヤマダ氏は

● ティカルの一号神殿ピラミッド



写真 久保田八郎 ニコンFE2・28mm F2.8ズーム・フジクローム100F100

メキシコ生まれの日系メキシコ人。国立自治大学の工学部機械科出身で、もと機械の設計をやっていた人だから飛行機にも詳しい。だがメキシコオリンピックのときに日本語の出来る通訳として働いてから、ガイドの仕事に興味をもち、以来マヤ考古学や人類学などを独学で学んだという秀才である。中米に関して何を聞いても知らぬことはない博覧強記の固まりのような人。

今年三月に初めて日本を訪れたという。感想を聞くと、東京の人間の多いこと、電車がすぐく発達していること、日本料理が美味しいことなどに驚いたと言っていた。スペイン語と日本語の完全なバイリングリストでメキシコきつての名ガイドとうたわれる。私たちがが世話になったのは今回で三度目。

## 奇跡の水

グアテマラ市に着いてからレストラシオンへ行き、ここで食事中にヤマダ氏から非常に興味深い話を聞いた。

メキシコのある地方の田舎町に不思議な水が出る所がある。その水を飲むとどんな難病でも治るといので、世界中から大勢の人が押し寄せるとい。なんでもその土地にUFOが着陸して特殊な放射線を水に浴びせたらしく、そのために水質が変わったのだと思われているという。あるときヤマダ氏の奥さんの腸に腫瘍が出来て、医師の診

察を受けたところ、手術しないと危険だと言われた。そこでヤマダ氏がその水を取ってきて、奥さんに飲ませた上、さらに水を患部の位置の皮膚に塗ったら、そこからシューシューと水蒸気のようなものが吹き出て、それきり治ったという。

私と田中氏はこの話を聞いて色めきまった。今回の旅行中になんとかそこへ行つて水を飲みたいものだとかヤマダ氏に話したが、今回は日程の都合がつかず、だめだという。しかし水の量が減少する傾向があるので早く行く必要があるという。

そこで来年もまたメキシコ旅行を実施して、ぜひともその水を自分で飲んだり、ピンにつめて日本に持ち帰って難病の人に飲ませたいというわけで来年度の旅行を企画した。詳細は本号47頁に出ている。

この水には宗教的な色彩は全くない。それどころかUFOが関係しているらしいので、別な惑星の未知の科学が感じられるのだ。

これ以外にもメキシコには異星人が農民に野菜の特殊な栽培法を教えたために、タマネギその他の作物が途方もなく巨大なものになったりするという。このオバケ野菜も見る予定である。

## 親日的なグアテマラ人

翌日はグアテマラ市内を見学。この

首都は緑豊かな素晴らしいレイアウトのもとに建設されており、非常に美しい都市だ。高級住宅街を通ったときのヤマダ氏の説明によると、五く六百平米の土地付きの白亜の豪邸が日本円で二千万円程度で買えるという。しかし、外国人がこの国で不動産を購入するのは困難らしい。

だが貧富の差の激しいグアテマラでは、一般国民にとって逆立ちしても手が出ない価格である。なにせティカル周辺の二千年前と変わらぬ掘つ立て小屋で生活しているインディオが沢山いるのだ。国民の平均的な生活は月に四百ドル（四万円少々）あれば充分だという。市内は昔来たときよりもかなり近代化されている。

古代マヤ人の子孫といわれるグアテマラ人は非常に親日的で親切であり、笑顔をよく見せて丁寧に対応する。親切さというものが人間にとって最高に高貴な資産であることを今回ほどに痛感したことはない。

午後はバスでアンティグアへ行く。これも昔来たのだが、家並は昔どおりで、グアテマラ市とは違って、民族衣装を着た婦人が頭を乗せて歩いていく土俗的な風景がときたま見られる。しかし昔ほどではなく、こぎれいな学校の制服を着て皮靴をはいた少女たちを見ると、かなり近代化されてきたらしい。

昔の有力者であったポネスの屋敷跡

の博物館やヒスイの工場などを見たあと、中央広場へ行くと、民族衣装を着た多数のインディオの一二〜三歳ぐらいの少女たちが、頭に民芸品の織物を乗せて売りにくる。かなりしつこい。全員がスペイン語でまくしたてるが、一人だけ英語の単語を混ぜて話す少女がいた。

手織りで二カ月ぐらいかかる大きなテーブルクロスが一〇ドルという安価な値段なのだが、ガイドさんの指示にしたがって一同はそれをさらに値切る。一ドルでも多くの収入を得ようとして必死に攻勢をかけてくる可憐な少女たちを見ると、値切るのは可哀そうで胸が痛くなってくる。

だが私の安易な感傷やヒューマニズムとは裏腹に、彼女たちは案外したたかに生きているのかもしれない。「私たちのように遅く生きなさい」と教えられたような気もする。民族衣装もたぶん商売用ののだろう。

このテーブルクロスを輸入する日本のデパートは一枚を数万円で売るといいう話を帰国後に聞いた。

その後いったんメキシコ市へ帰り、一泊してサンフランシスコ経由で二二日に無事帰国した。

## 付記

わずか一〇日間の旅だが、実り多い日々をすごした。今回はひたすら四感（目・耳・鼻・口）の四つの感覚器官



▲グアテマラ市内の高級住宅。



▲ティカル付近のインディオの住宅。



◀必死で観光バスを追いかけるインディオの物売りの少女たち（アンティグア）。  
写真三点共／久保田八郎

をコントロールした意識の旅にしよう  
 と思い（これはアダムスキーの『生命  
 の科学』の基本思想）、目を振り回す最  
 大の元凶であるカメラの携行をやめよ  
 うと思ったが、出発前に新宿のヨドバ  
 シへ寄ってカメラ群の大波動を浴びた  
 のが運のつきで、結局私の愛機はバッ  
 グに入ることになった。ただしプロ用  
 の大きなのはやめて三五ミリ二台だけ  
 にしたけれども、極力、「目」を牽制し  
 て「意識」を用いることにした。その  
 意味ではこれまでにない画期的な意識  
 旅行になったと思う。だが仏頂面をし  
 たくないので、女性たちに大いに冗談  
 をとばしたのだが、かえってよくなか  
 ったようだ。

語学の重要さも痛感した。メキシコ  
 やグアテマラでは英語が通じないので、  
 忘れかけたスペイン語を取り返そうと  
 参考書を伴にしたが、多忙な旅行中は  
 なす術もなく、気がついたら旅は終わ  
 っていた。とにかく事前に死に物狂い  
 になって学習の時間を作りだすこと、  
 これに尽きる。

終始私の重いバッグを担いで献身的  
 に助手をつとめてくれた清水正君（日  
 本GAP横浜支部代表）に深謝したい。  
 その他、参加者の皆さんにあらためて  
 お世話になったお礼を申し述べたい。

# 本誌バックナンバー掲載記事目録

★下記の他に100号よりあります(102、103号なし)。ハガキでご注文下さい(代金後払い)。バックナンバーに限り送料不要。

## No.122 平成5年7月25日発行 ¥900

金星文字を解読してUFOの推進原理を解明! — バシル・バン・デン・バーグ  
星々への切符 — 遠藤昭則  
オメ教授が発見した金星?文字 — 久保田八郎  
不思議な体験連続の人生 — 千葉福造  
オーラで異星人を見分ける — 紙屋光孝  
私だけがみるUFO — 須山有美子/宮本浩子  
万物は人間の想念に感応する — 塩谷信男  
四感・生命の息・転生 — G・アダムスキー

## No.121 平成5年1月25日発行 ¥900

バロマー山にUFO出現 — 久保田八郎  
宇宙ポータルはUFO —  
アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる! —  
江戸川堤防の怪光体 — 鈴木 武  
不思議な筒状の雲 — 沼倉孝彦  
人間・イメージ・波動 — 佐々木八郎  
驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動 — G・アダムスキー

## No.120 平成5年1月25日発行 ¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法 — 久保田八郎  
二人の異星人からの忠告 — 辻 俊昭  
テレバシーで植物を動かす方法 — 遠藤昭則  
人間は生来テレバシー能力を持つ — 堀江健一  
夜空の不思議な“映像” — 田辺優子  
重力と宇宙の自然のパワー — G・アダムスキー  
モアイとUFOの島へ — 伊東芳和

## No.119 平成4年10月25日発行 ¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現 — 久保田八郎  
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い — 佐々木八郎  
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快 — ロノ町一男  
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る — 穴原美智子  
神室山上空のUFO — 沼倉 孝彦  
UFO・異星人・地球人 — G・アダムスキー

## No.118 平成4年7月25日発行 ¥900

イエスの実像と転生の法則 — 久保田八郎  
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー — 中村省三  
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法 — 高梨十光  
私のUFO目撃と不思議な体験 — 川野晶子  
音楽は生命エネルギーを運ぶ — 鷺見 弘  
UFO・異星人・地球人(1) — G・アダムスキー  
天地万物との一体化で長寿 — 塩屋信男

## No.117 平成4年4月25日発行 ¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現! —  
地球救済活動を続ける異星人(2) — 秋山真人  
飛行機を助けた謎のUFO —  
奇跡を起こす反復思念とイメージ法 — 久保田八郎  
善だけを探し求めてテレバシーが発現 — 小川隆志  
ひとりて物品が動く現象 — 大嶋順子  
思いどおりに出現するUFO — 中島直仁  
ジョージ・アダムスキーと異星人(完) — アリス・ポマロイ

## No.116 平成4年1月25日発行 ¥900

地球救済活動を続ける異星人 — 秋山真人  
南フランスの不思議なコンタクト事件 — 中村省三  
奇跡的に願望を実現させる方法 — テッド・オーウェン  
病気治療の宇宙哲学的応用 — 高梨十光  
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ — 久保田八郎  
江東区上空のUFO — 森田久恵  
南九州支部からの声 — 曾我部勇人  
ブラザーズに助けられた? — 藤沢清則  
ジョージ・アダムスキーと異星人 — アリス・ポマロイ

## No.115 平成3年10月25日発行 ¥900

アダムスキーとUFO問題の真相 — ハンス・ビーターセン  
金星表面に超長大な水路を発見! —  
20年ぶり宇宙からの帰還!? —  
突然消滅した10人の少年少女! —  
暗闇から現れた不思議な人々 —  
円筒型の奇妙な物体を見る — 服部哲雄  
謎の飛行物体、米子に出没 —  
UFOの色彩についての考察 — 斎藤俊徳  
UFOと古代マヤの謎 — 久保田八郎

## No.114 平成3年7月25日発行 ¥900

日本GAP全国ネットワークテレバシーコール UFO観測会、大成功  
北海道上空の物凄い光景 — 松村芳之  
尽きぬ宇宙へのロマン — 高木 潤  
奇跡を起こす想念の力 — 遠藤昭則  
私は巨大な円盤を見た! — 松浦義教  
タパヌイの謎の大爆発 — ジャン・パジャック博士

## No.113 平成3年4月25日発行 ¥900

ファティマの大円盤出現事件 — 久保田八郎  
奇跡のペンダントと転生の法則 — ハンス・ビーターセン  
ティモシー・グッドのアダムスキー体験 — 中村省三  
オーラ透視力開発法 — 遠藤昭則  
壁面の奇跡 — 永山稔恭  
江戸川区上空の巨大UFO — 北館博子  
クリスマス前のUFO出現 — 伊藤芳和  
私のUFO目撃体験 — 平井沙織  
UFO-宇宙からの完全な証拠(完) — ダニエル・ロス

## No.112 平成3年1月25日発行 ¥900

アダムスキー問題と日本GAP — 久保田八郎  
宇宙人の遺体はロボットだった! — ハンス・ビーターセン  
高度に進化した金星人の実態(完) — G・アダムスキー  
〈写真〉金星の不思議なスジ模様 —  
青森県に頻発するUFO出現事件 —  
UFO-宇宙からの完全な証拠(14) — ダニエル・ロス

## No.111 平成2年10月25日発行 ¥900

高度に進化した金星人の実態 — G・アダムスキー  
金星から転生してきたイエスの大地へ — 久保田八郎  
長野県に出現した巨大母船型UFO — 村田正道  
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ — 番場博次  
松本市にもフットボール型UFO — 茶谷健一  
北海道に現れたアダムスキー型円盤 — 堀江健一  
私のテレバシクな不思議な人生 — 郡司典子  
UFO-宇宙からの完全な証拠(13) — ダニエル・ロス

※ハガキでご注文の場合は、号数、冊数、住所、氏名、電話番号を明記して下さい。

# アメリカ・メキシコ・コスタリカ 宇宙ロードの旅

●1994年度(平成6年)日本GAP企画第16回海外研修旅行



写真上=デザートセンターのコンタクト地点(矢印)。下左=テオティワカンの太陽のピラミッド。右=パレンケの碑銘の神殿ピラミッド。  
撮影3点共/久保田八郎

◆日本GAP海外研修旅行は今回で16回目になります。今度はアメリカの大都市ロサンゼルス市内見学を皮切りに、1952年11月20日にアダムスキーが金星人と会見した歴史的な場所であるデザートセンターを訪れてコンタクト地点を視察します。GAP会員必見の感動の地域です。そのあと中米の美しい国コスタリカへ飛び、首都サンホセに2泊して市内見学、名高い避暑地のアウフェラや花の都エレティアを周遊。次にメキシコへ入り、首都の近くのテオティワカン大遺跡を見学。太陽のピラミッドや月のピラミッドに登頂。首都の市内見学。翌日はメキシコの田舎へ専用バスで行きます。ここはUFOが着陸して特殊な放射線を浴びせたために水質が変化して、これを飲めばどんな難病でも治るといわれる奇跡の水が湧き出る所です。自由に飲んだりビンにつめて持ち帰ることもできます。首都のメキシコ市には2泊して、滞在中はユカタン半島の古代マヤ遺跡中最も壮麗典雅な風格をもつパレンケの遺跡を訪問(希望者のみ)。その後メキシコ市から米サンフランシスコを経由して帰国の途につきます。

◆日本GAP独特の温かい家庭的な雰囲気 に満ちた手作りの楽しい旅を満喫して下さい。旅行中はベテランの田中正(ワールドセプトラベル社より添乗。日本GAP東京本部役員)と久保田八郎日本GAP会長が親身のお世話を致します。訪問地のいずれも治安は良好ですから安心して多数ご参加下さい。

## 日程

1992年(平成6年)8月12日より10日間。  
12日(金)成田16:00発。米ユナイテッド航空890便で出発。同日朝ロサンゼルス着。着後半日市内見学。同夜ロサンゼルス泊。  
13日(土)朝専用バスで出発、デザートセンター行き(片道4時間)、夕方市内へ帰着。夜ロサンゼルス発。(機内泊)。  
14日(日)朝コスタリカの首都サンホセ着。国立博物館、黄金博物館その他、半日市内見学。同夜サンホセ泊。  
15日(月)朝専用バスで首都より20kmの避暑地アラフェラと花の都エレティアを周遊。同夜サンホセ泊。  
16日(火)早朝サンホセ発、約3時間後メキシコ市へ引き返す。そのままテオティワカンの大遺跡へ専用バスで行き、太陽のピラミッド等に登頂。同夜メキシコ市泊。  
17日(水)専用バスで奇跡の水が出る所へ行き、水を飲み、採取して、同夜はその土地のホテルに宿泊。  
18日(木)専用バスでメキシコ市へ帰る。同夜はメキシコ市泊。  
19日(金)メキシコ市滞在。希望者のみ古代マヤの遺跡パレンケへ飛び(要別途料金)。見学後メキシコ市へ帰り、同夜市内泊。  
20日(土)早朝メキシコ市発、米サンフランシスコへ10:16発。13:40ユナイテッド航空837便で出発。  
21日(日)成田へ16:25着。

- ★期間 1994年8月12日(金)より21日(日)まで10日間
- ★費用 59万5千円(1カ所別途料金)
- ★定員 20名
- ★航空機 ユナイテッド航空
- ★ローン 費用は24カ月払いも利用できます。詳細は案内書をごらん下さい。
- ★参加資格 日本GAP会員と会員に同行する家族に限ります。
- ★案内書 下記へハガキでお申し込み下さい。〒150東京都渋谷区東3-24-3 サンイーストビル2F ワールドセプトラベル株式会社 田中正 ☎03-3499-2461 (夜間は田中宅0475-89-2039へ)
- ★説明会 第1回目 平成6年5月15日(日) 第2回目 " 7月24日(日) 会場・時間等については案内書申込者に後日お知らせします。
- ※ご注意 8月は1年を通じて航空運賃が最高値になる時期ですから、1~2月頃の最低運賃と比較しても無意味です。この費用は他社と比べて高くはありません。多数参加見込につき早目にお申込み下さい。
- ★企画 日本GAP
- ★主催 株式会社 日本旅行 (運輸大臣登録一般旅行業第2号)
- ★取扱い旅行代理店 ワールドセプトラベル株式会社 (運輸大臣登録旅行代理店業第157号)



が約一〇分間に渡ってこれを確認することができたのです。私は天体観測の経験がありますので、この物体が太陽の出ている明るいうちに目視できたこと、飛行の軌道が途中で約九〇度近くも曲がったことの二点から、人工衛星ではないと判断しました。私にはまだ波動的印象によるテレビ画面の判断はできませんから、現象のみを御報告させていただきます。今後とも宇宙哲学とUFOの研究に微力を傾ける所存ですので、久保田先生や日本GAP役員・会員の皆様、御指導の程宜しくお願い申し上げます。

**和魂洋才(わこんようさい)**

青森県 大寺 勉

地球の芯も空も人間の意志に添わず、否シユベンクラが「西欧の没落」で示していたように、自然を征服する思想の限界を示してきたものと思います。拝金主義や利息などの制度を始めたユダヤ人は決して選民とは思えません。金星探査機マゼランの写真を見たものです。

二宮忠八やライト兄弟以来飛行機が飛び始めてから九〇年余り、まだ一世紀を経ていません。三次元の文化は進歩が早いと思います。二次元の乗物はあまり進歩がありません。地球人も地球が宇宙の一員であることを認識できる時代に入っています。

アポロや人工衛星、ロケットにより領国が解ける日は目前に来ていると思います。宇宙哲学、宇宙科学等の宇宙文化の形成こそ二一世紀への課題だと思います。コペルニクスの展開の再来と思われま。東洋哲学を懐にしている日本も、西欧一辺倒から

揺れを戻さなくてはなりません。和魂洋才を思い出すことです。

アメリカではトップ・シークレッツトレベルで異星人と一緒に研究や何らかのことはしていると思像します。私もスプーン曲げに挑戦しました。そして大スプーンと小スプーンを曲げることができました。呼吸法で精神統一して念じましたのです。我ながら不思議でした。力を入れて戻してからカレライニスに使用していますが、家内は美味しくないとい申しております。

生活の視点が変わってきています。感謝しています。人は出会いによって自己を発見するといわれます。鏡が必要なのだと思います。教育も根本から見直す必要があります。科学も誤りながら教育も間違っています。お金で人の価値が決まるのは間違っています。地球の自転速度はマツハハ一・六にもなるのに、その感覚を持たずに済むのはどういうことか、今の科学には全くわかっていないと思います。どんどん問い詰めてこそ化けの皮が剥けてきます。地球人の精神性を高める為にはたくさんのお金とかがあると思います。

どうぞこれからも宜しくお願い申し上げます。

**素晴らしいアダムスキー哲学**

岩手県 千葉常男

先生の素晴らしい為になる講義テープを毎月伊豆支部月例会で拝聴させて頂いております。誠にありがとうございますとございます。

私は一九九年前にアダムスキーの「UFO同乗記」に出会いました。すっかり魅了されてしまい、アダム

スキー哲学に関心を持つて参りましたが、途中全く無関心な時期もありましたが、七年前から「ハツ」と気付くようになりました。

そんな中、五年前のある日に確信ある願いに応えて下さり、UFOが出現して下さいました。見掛けはバレーボール程の大きさで、物凄く明るいう体でした。翌日の新聞には「謎の光体の飛行」として載りました。この目撃の後で実感したことは、やはり他の惑星の人々は地球人一人一人の心を常に読み取っているということです。

私が地元岩手から静岡県裾野に転勤になってからも、伊豆支部が発足されました。御蔭様で毎月月例会研究会に参加させて頂いております。この会はとても有意義なものです。

私は先生の素晴らしい講義テープによって大いに啓蒙されました。また、テレバシー練習や会員同士の体験談や夕食会はとても楽しくて実りあるものです。代表の高梨氏は長年アダムスキー哲学に取り組み、学び得たことを惜し気もなく教えて下さりました。私も大いに学ぶことが出来ました。感謝に堪えません。このような会があるからこそ、より一層掛けずに学び励んでゆけるのだと思います。

この地球上に日本GAPがあるというところは重大で素晴らしいことだと思います。改めて久保田先生には感謝申し上げます。

ところでこの八月に岩手に帰ることになりました。岩手には支部はありませんが、UFOやアダムスキー哲学に関心のある方がたくさんいらっしゃいます。できればそのような方々と共に楽しく語り合います。

**会員との交流を**

北海道 小山裕子

いつもUコンが送られてくるのを楽しみにしている一会員です。Uコン広場に載せて下さい。主人共々会員になって一年になりました。会員といっても名ばかりで、支部で有名なセミナーには一度も参加したことがありません。皆様の盛んな活動の様子を知って、ただ羨ましく感じしている次第です。

私がアダムスキーの本に出会ったのは今から二〇年前の大学生の頃です。以来夢中でUFO関係の本を読み、各団体について知りました。去年自宅近くの書店でUコンを見つけた時は、これこそ私が探し求めていたものと、ためらうことなく入会しました。北海道の支部は旭川と札幌にしかなく、道南での活動の場が無いのが残念です。書店でUコンを見る度に「この近くにもボランティアの方がいらつしやるんだなあ」と思い、頭が下がります。できれば道南に御住まいの方と交流が持てたらと思っています。御便りください。

〒〇四二

北海道函館市柏木町二五一六

TEL 〇一三八一五二一八四九七

11113

東京 宇賀地岩男・孝子

いつもUコンをありがたうございます。この本はいつも宇宙哲学、生命の科学という正しい軌道へ僕達を運びます。

遅れ馳せながら御報告したいと思っております。去年の一二月に僕達の赤ちゃんと生まれました。女の子です。名前はまだ「あした」といいます。どうぞ宜しくお願い致します。制作者はもちろん宇宙の英知です。11113の幸福感を今、身をもって体験しているところです。



**二世誕生**

東京 齋藤庄一・竹子

御変わりございませんか。遅くなりましたが里奈の写真を同封します。二カ月半の頃のもので。御蔭様で元気にすくすくと育っています。落ち着きましたから、また我家にいらして下さい。次号のUコンを楽しみにしております。先生の御健康と御多幸を御祈りします。



絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。

# 新アダムスキー全集

全面改訂・改訳 全10巻

久保田八郎・訳／各四六判



中央アート出版社・発行 104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル5F ☎03(3561)7017 ●郵便振替 東京8-66324

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた / UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔 /

アダムスキー

## ① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

## ② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

アダムスキー

## ③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の語り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心靈現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

## ④ UFO問答100 216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

## ⑤ 金星・土星探訪記 380頁・定価2400円

アダムスキーが母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわったじき妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

## ⑥ UFOの謎 262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の真情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

## ⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

## ⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡来してアダムスキーの今はじき高弟たちと接したインタビュー記事も収録。

アダムスキー

## ⑨ UFOの真相 320頁・定価1980円 1991年4月刊!

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙の実態と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンズ・ビーターマン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したパシル・パン・デン・バーグらの証言が自叙。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

## ⑩ 超人ジョージ・アダムスキー 232頁・定価1300円

魅大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの11人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

## UFO—宇宙からの完全な証拠 480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



全国書店で絶賛発売中

# UFO・遭遇と真実

四六判・264頁  
美麗カバー付

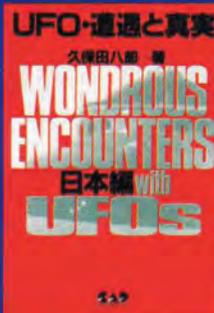
★久保田八郎著

¥1,500 送料 250

かつて本誌に掲載された驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろし読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を遙かな惑星群に誘う稀有の保存資料です。

## 内容

- ①関東大震災中に人々を救出した円盤（横浜の世にも珍しい大事件）
- ②東京タワーから目撃されたUFOと搭乗員（東京の素晴らしい目撃体験）
- ③超低空に降下した円盤と、手を振る異星人少年（高松市の驚異的事件）
- ④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景（上富良野の仰天現象）
- ⑤UFOに乗ってエジプトまで飛んだ少年（松山市の物凄い事件）
- ⑥熱烈な願いに応じて出現したUFOを撮影（東京でのテレパシー体験）
- ⑦尾道市に出現したアダムスキー型UFO（尾道市の偶発事件）
- ⑧円盤や母船に乗って別な惑星へ行ってきた！（秋山眞人氏の超絶的体験）



■書店で品切れの節は下記へ郵便振替が現金書留で直接ご注文下さい。

中央アート出版社 〒104 東京都中央区京橋3-7-13 三成ビル ☎03-3561-7017 振替・東京8-66324

\*上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金到着後払いで直送します。

## 英文版「UFO contactee」No.8 発行 日本GAP

B5判/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥175/3冊まで¥250

世界のUFO研究界で絶賛をあげている英文版ユーコン誌は、いまや各国の研究団体や個人研究者から注文が殺到、ロシアや南太平洋のフィジーあたりからも問い合わせがあるほどです。これは、小冊子ながら内容はきわめて重要な情報に満ちており、他に類似専門誌がないからです。No.8は「イエスの実像と転生の法則」の英訳、アダムスキーの講演、その他の記事、写真を満載。英語学習用にも最適。ぜひお求め下さい。（ただしNo.1～No.3は品切れです。）

## 編集後記



▼本号は金星文字解説による反重力モーター開発特集号としました。むかしバン・デン・バークによって開発されて以来、誰も手をつけていないと思われていた金星文字解説が、意外にも私たちの身近で行なわれていたという事実も一種の驚異です。これでアダムスキー問題は地球の運命を根底から揺るがすほどの大問題を含んでいることがわかります。

▼UFOは依然として出現しつつあります。思いがけぬ場所でも一般人によって目撃されているという事実を考えると、UFOなるものは本来誰にも見られ得る「普通のなもの」と言えますが、本号の各レポートの執筆者をみますと、何か特殊なカルマを持つ人が特によく目撃するようです。形而上的な問題を考えさせられますね。

▼アダムスキーの哲学はまさに宇宙の法則そのものと言えますが、その裏には異星人のテクノロジーが骨組みをなしているように思われます。四つの感覚器官のコントロールというのは、かつていかなる宗教哲学も言及しなかった理論です。何か素晴らしいメソッドが潜んでいるような気がするのですが。

▼UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。

▼本誌は多数のヴォランティアにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送ります。

日本GAP機関誌・季刊 秋季号  
UFO contactee 122号

編集発行人 久保田八郎  
発行所 日本GAP  
〒103東京都江戸川区本一色1-12-131  
☎03-3655-1109/58  
振替 東京41359912  
一九九三年七月二十五日発行  
定価九二七円（本体九〇〇円）送料210円  
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

# 日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※平成6年1月のみは第2日曜日の9日に変更。1月は全員記念撮影。写真希望者は送料共千円を受付で納入。セミナー終了後別場所で開催。1月よりテキストは新アダムスキー全集2巻「超能力開発法」を使用。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30 会員による講演。 1:30→3:00 久保田会長による講義。 ※平成6年1月よりテキストを新アダム全集2巻「超能力開発法」に変更。 3:10→5:00 超能力開発練習/近況報告/質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478 平成4年1～10月=「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※当分の間、セミナーは中止。	仙台市青葉区米ヶ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊巖橋経由動物公園方面バスで約7～10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先=登原弘可 ☎022-284-2910	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時に変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	具志川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=里 孝人 ☎098-869-9964	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5951-3518	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛事前に問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=(副代表)小川隆志 ☎0735-32-2834	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km。市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-3252	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時と会場は変更があるため、関宛事前に問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥400	同 上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話で問い合わせること。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同 上



### オーゾン肖像写真

新アダムスキー全集第1巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料 ¥120

### 金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の4層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。9.3cm×8.8cm。



¥500 送料 ¥62



### ESPカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カード各5枚ずつ、計25枚1セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯するのに便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥1,600 送料 ¥175



### テレフォンカード

日本GAP特製テレフォンカードの第6弾。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーがコンタクトした金星人が、地面に残した靴の跡の不思議な図形を今回は取り入れました。これは今も謎のままになっています。

¥1,500 送料10枚まで ¥62



### GAPキーホルダー

多数の方の要望にお応えして制作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メダル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料 ¥120



### 会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒式留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで ¥120



### ブックカバー

新アダムスキー全集のカヴァー用に作られたものですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも利用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」という意味の英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料 ¥175 5枚まで ¥250

### GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。黒地のため黒カバンや黒い物に最適。色物の品物にも似合います。

¥200 送料10枚まで ¥62



## 新アダムスキー全集★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!!★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本GAPでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。ハガキでご注文下されば代金あと払いでお送りします。(電話によるご注文はご遠慮下さい)

申込先

住所、氏名、電話番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに上記項目をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封します。近況報告付

るまでに約1週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511  
日本GAP 振替・東京4-35912 ☎03-3651-0958



### 日本GAP能力開発テープ

●日本GAP東京月例セミナー  
毎月開催される東京本部月例セミナーから、久保田会長の「生命の科学」解説講義と質疑応答その他を録音したものを、これを聴けば絶大な信念と勇気がわきあがり、人生の荒波を超えて成功をめざして堂々と前進できます。  
●テープ① ¥1500 送料 ¥175  
〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第3巻「生命の科学」の講義。近況報告付  
●テープ② ¥1200 送料 ¥175  
〈内容〉会員による講演、超能力開発練習。質疑応答。★1990年以前のバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせ下さい。  
●1993年度日本GAP総会 2巻セット ¥2700 送料 ¥250  
〈内容〉久保田会長講演「宇宙的な信念と勇気を起こす方法」。質疑応答。

申込先

申込先「品名」「〇年〇月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。  
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202  
松村芳之 振替・東京0-162644 ☎03-3653-9387



### 日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。  
●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥4000  
〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約130分  
●日本GAP総会 全2巻各 ¥3000  
〈内容〉毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)  
●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000  
〈内容〉旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)  
●1992年度デザートセンター講演行 全1巻 ¥3000  
〈内容〉1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。送料はビデオ1本 ¥360、2本以上3本まで ¥4本以上7本までは距離に応じて変わります。

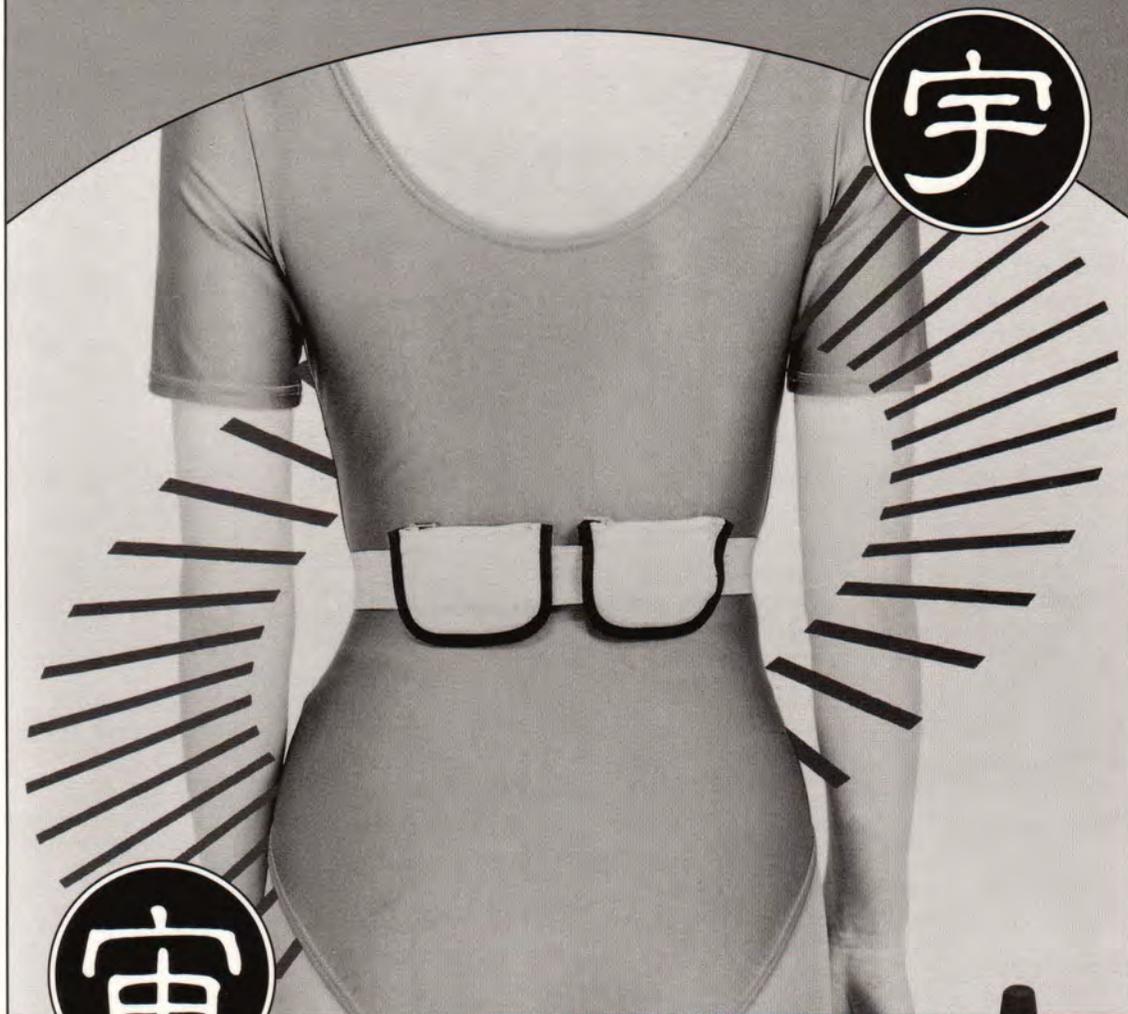
申込先

ご注文の際は品名、〇年〇月分、上下巻の区別、個数、住所、電話番号を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。  
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103  
伊東芳和 振替・東京4-13811 ☎03-3351-9526

「ひと」は地球の重力の中に生きている。

そして「ひと」はそれ自体、秩序を持った小宇宙ともいえる存在である。

『プラズマハート』は宇宙からの無限のエネルギーを特殊なコイルによって生体本来の秩序を保とうとする能力に働きかける健康器です。



ただ振るだけ!?!の健康器

## プラズマハート

プラズマハート	38,000円
プラズマハートS型 (装着用)	60,000円
プラズマスリム (超薄型装着用)	60,000円
ハートスタンド (ハート振り器)	37,000円
プラズマペンダント	19,500円



製造発売元 **S 株式会社 自然医学研究会**

プラズマ健康法は当社の登録商標です。(第1929511号)

TEL.(03) **3323-6363** FAX.(03)3323-6364

●定期講習会のお知らせ: 毎月第2土曜日、午後2時~5時、中野サンプラザ(JR中野駅北口) 会費無料